



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



八
江
林
名
品
圖
卷
五



ル 4
303
5



八江秋名所圖画五之卷

目錄秋之部下

龍昌院

同圖

妙雲院

心蓮院

蓮華寺

妙香院

妙孝寺

常念寺

同圖

渡口

二江夜雨

法藏寺

弘法寺

同圖

納涼畵

弘法寺川

海潮寺

新橋畵

海潮寺畵

護念寺

妙性寺

鶴林寺

同圖

教安寺

梅岸寺

無藏院

亨德寺

同圖

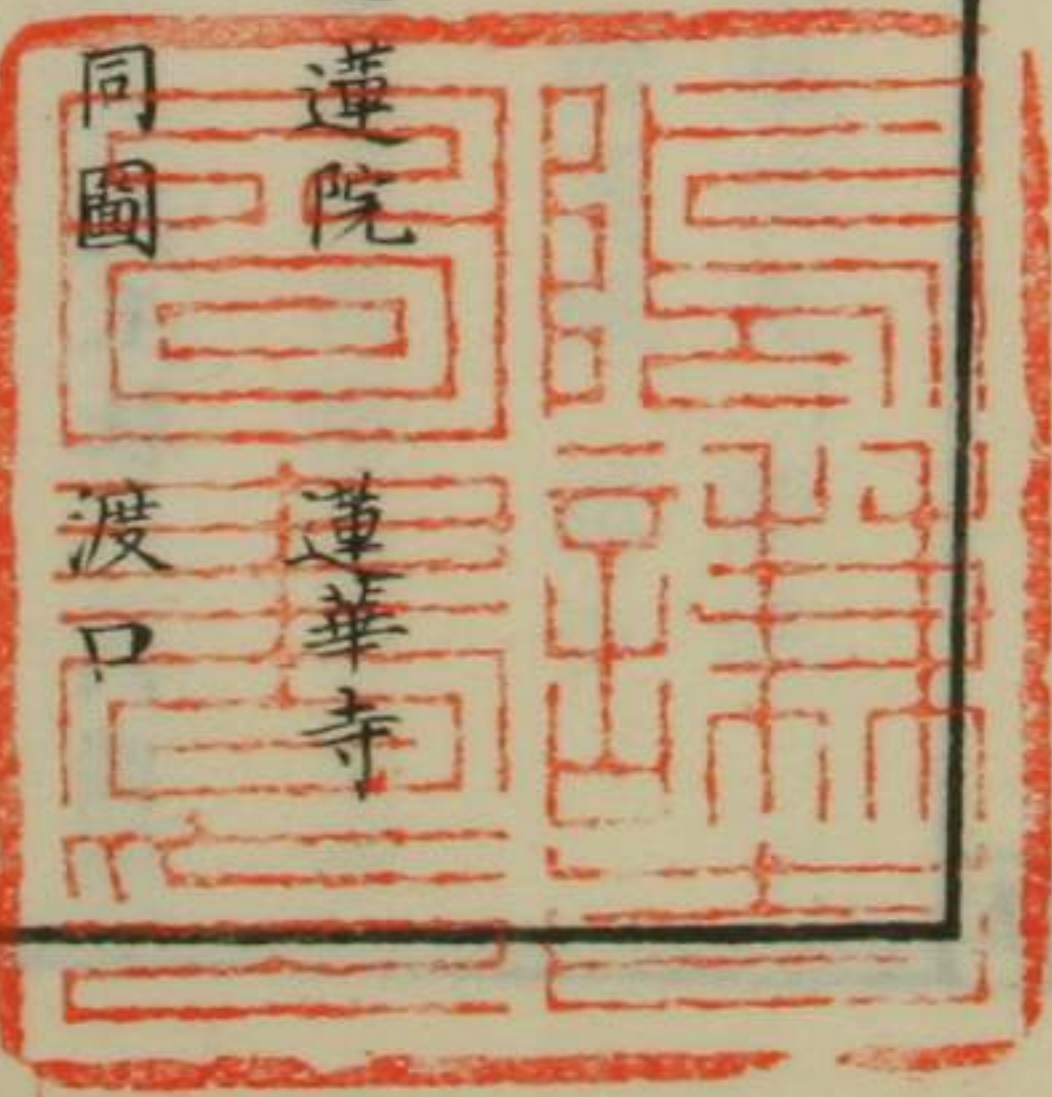
本行寺

保福寺

同圖

粟島明神圖

西久寺



妙元寺 淨國寺 西生寺 万福寺 泉福寺

松巖寺 住吉神社 同園 同祭禮畵

濱崎渡場園 魚迫場同園 御船藏園

獵人町同畵 款津江暮雪 札場畵 諸町盆踊園

龍福寺同園 稱名院 吉祥密院同畵 二森荒神

同園 辨天橋同園 善福寺 天王社 同園

市杵島明神社

以上目錄陸拾肆條

八江菽名所圖畫五之卷

木梨恒充 著述

秋之部下

山縣篤藏 補正

金沙山龍昌院 鍛冶屋町筋を米屋町の北詰にあり京

師の清浄華院に属し菽浄家三箇寺の其一として一派の觸

頭あり本尊阿彌陀如来立像御長五寸二分 惠心僧都の作として開山

を専蓮社稱譽是休上人一道大和尚と云雲州熊谷の産添原氏あり元和九年に寂す

相傳ふ當寺ハ慶長九年二丸様児玉三郎右衛門元良の女弟与周慶快樂院と云 御卒去

みより一字を御建立ありて周慶寺と号し後寛文四年山口

島山西方寺を改め周慶寺と号し當寺ハ龍昌院殿の御菩

提所とせられて寺号をも改められり

大庫裏

韋駄天を安け

長二尺五寸毎年正月二日杓子舞といふものを執行す是ハ周慶寺時代の古事にて鰯

口杓子といふものを持て舞ふを吉例なりといふこの鰯口杓子ハ寺の重宝として年毎の正月一度これをかす

本門

此門ハ伏見の御屋敷の御門を引きたるものにて世俗を青貝門といひむくハ青貝にて模様してありとを接する伏見のまきを所の名もて青貝をなると唱へしより青貝のまよりとさるといひ誤りたるものなるへ

古墳一基

聖光院殿春譽貞芳大姉

寛永六四月廿九日土佐一條殿姫君長州萩廣井式部

太夫室 墓石四角

宝珠形未由不分明

妙雲院

同寺の支院なり裏門のうちあり

本尊阿弥陀佛ハ惠心僧都の作り開山ハ傳譽春應大徳

和尚といふ

生國ハ雲州にて八木氏なり

寛永年間の草創して大照公命し

て実道備前守政義の菩提所となりしとを

心蓮院

寶永七年の開基して心蓮社光譽上人良典真

阿の建立する所なり初大島郡佛性坊といふ古寺を移し

て大慈寺と号す後元文の比今の寺号に改む又宝永六年

神谷介右衛門といふ者念願ふよりて常念佛を執行せり

慈性山蓮華寺

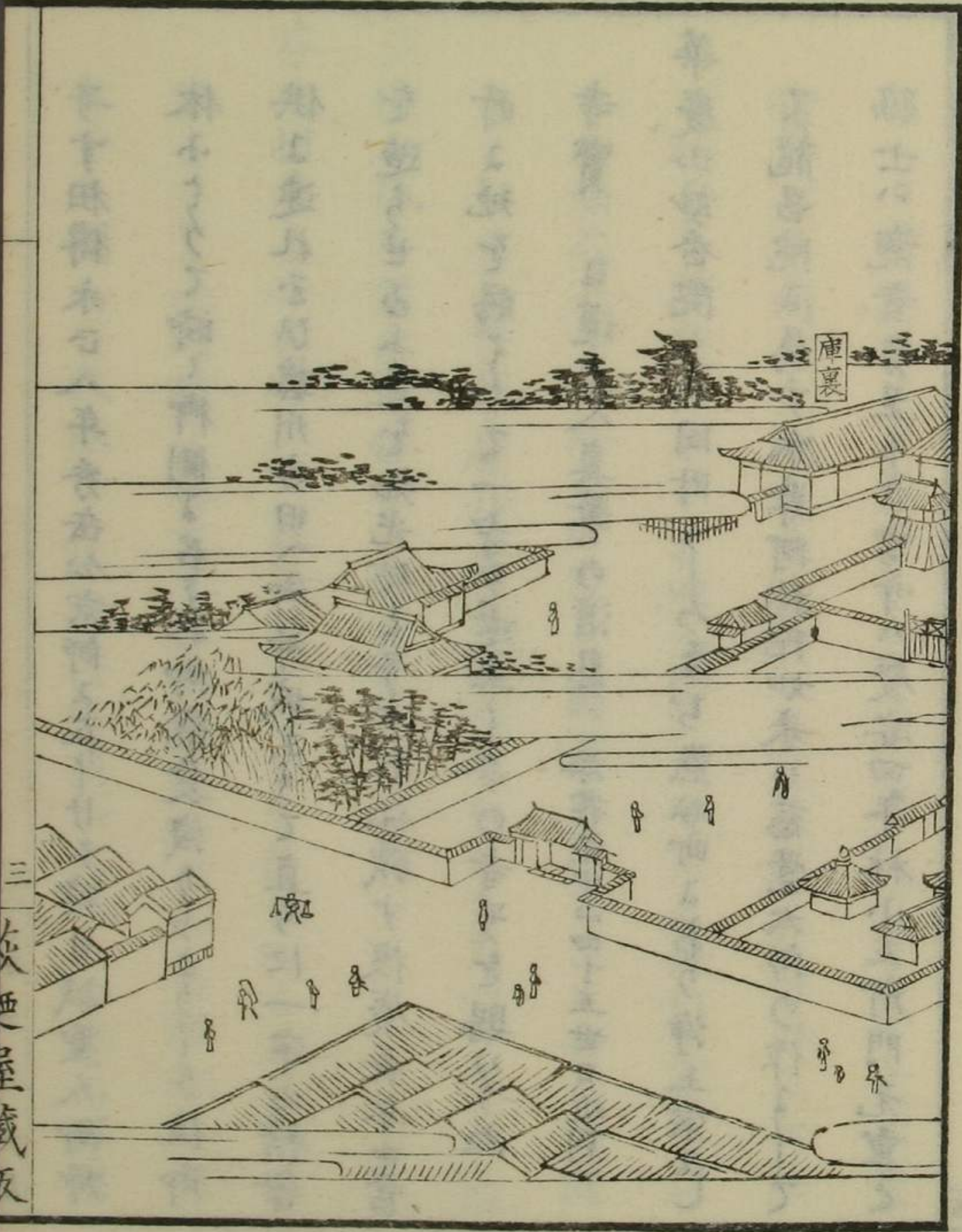
濟口より西詰北の角にあり日蓮宗より

て京師妙満寺に属す勝劣派なり

本尊釋迦如来

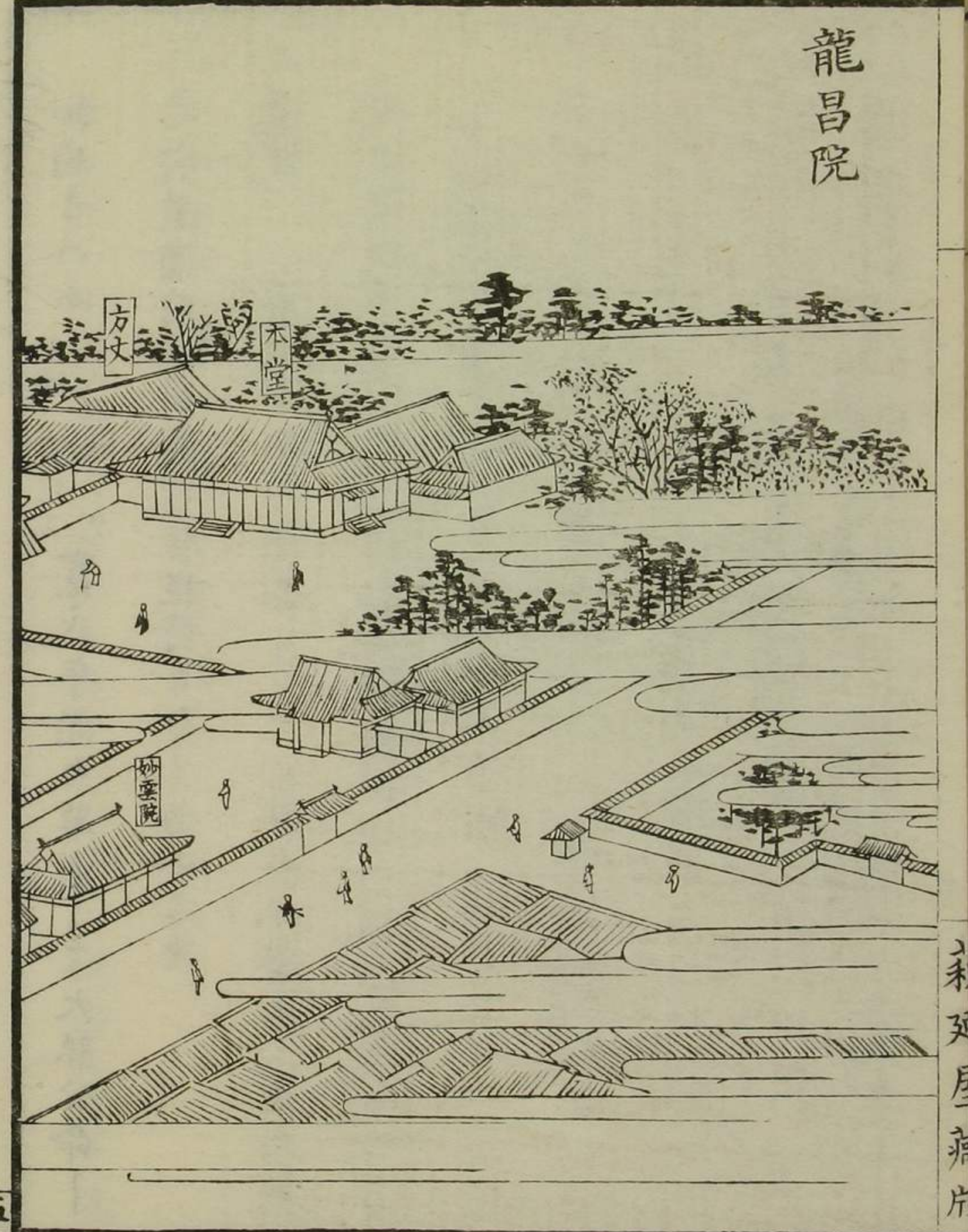
多宝法華題施主 糸賀松齋

を安し開山ハ日誠聖人と



三
火
西
屋
藏
反

龍昌院



三
絲
延
屋
藏
反

号す相傳永正八年秀岳公京師に在りける時日誠聖人御帰
依ふらりて時々御側より召され御寵愛淺うらきりて後御
供に連れ玉ひ藝州吉田へ御帰城ありて直ちに一字の精舎
を造らせ玉ふ是を知光坊と号す則に任職す後慶長年中當
所之地を賜りて一寺を建立し今の寺号を賜りぬ
寺寶 日蓮上人真筆の消息 添書正中山四十五世日近判

華慶山妙香院

同所よりをもち熊谷町にあり浄土宗に
て龍昌院に属す本尊阿弥陀如来に慈覺大師の作りて
脇士の觀音勢至より當寺に慶安四年林小左衛門元重と

いづる者建立せし所なりといふ元重の祖林三郎左衛門重
實天正年間より御當家へ属し隆景公朝鮮御陣の御供
に加はり後慶長年中吉田に住すと云ふ小左衛門元重とい
はり法心ありて終に出家し圓甫と法号して母の菩提
をとむらふ則ち華慶妙香大姉の号をとりて一の菴室を
結ぶ依て圓甫を當寺の開山とす

芬陀利華山妙孝寺

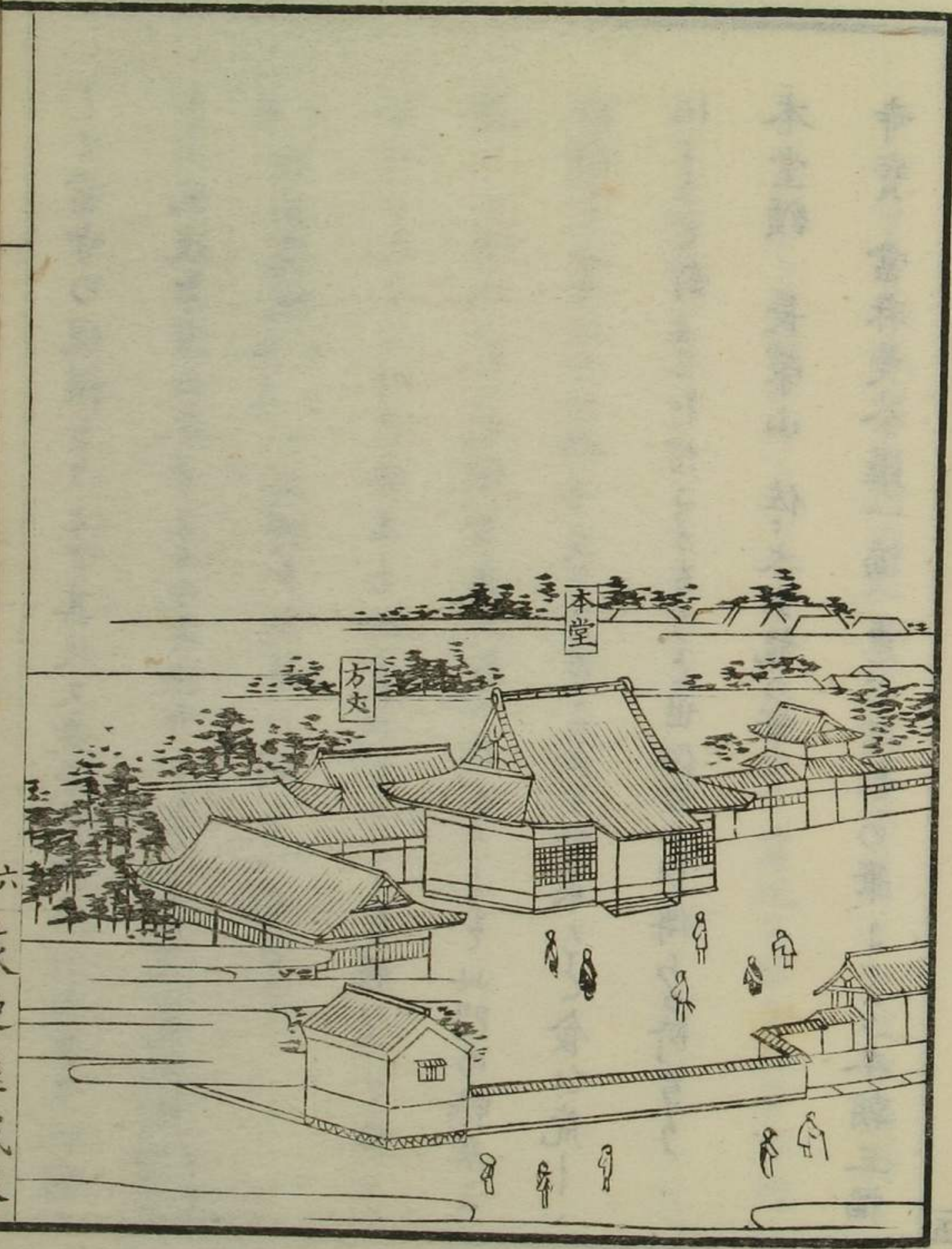
渡り口をもちて熊谷町にあり一向
宗にして光明坊に属す本尊阿弥陀如来に安阿弥の作
りて開山は大永といふ相傳ふ開山大永といふがめ禪宗

の僧ありしが三十歳の春より真宗に皈依しつて藝州高田郡の艸菴をむすび五年をたりて伐へて當寺に來り住職せしといふ當寺建立の寛永のきゑんとす

長榮山常念寺 不断院と号に頓振丁筋にわたり口の角にあり京師智恩院に屬す長州鎮西社一派の觸頭として菽三箇寺の一貞たり

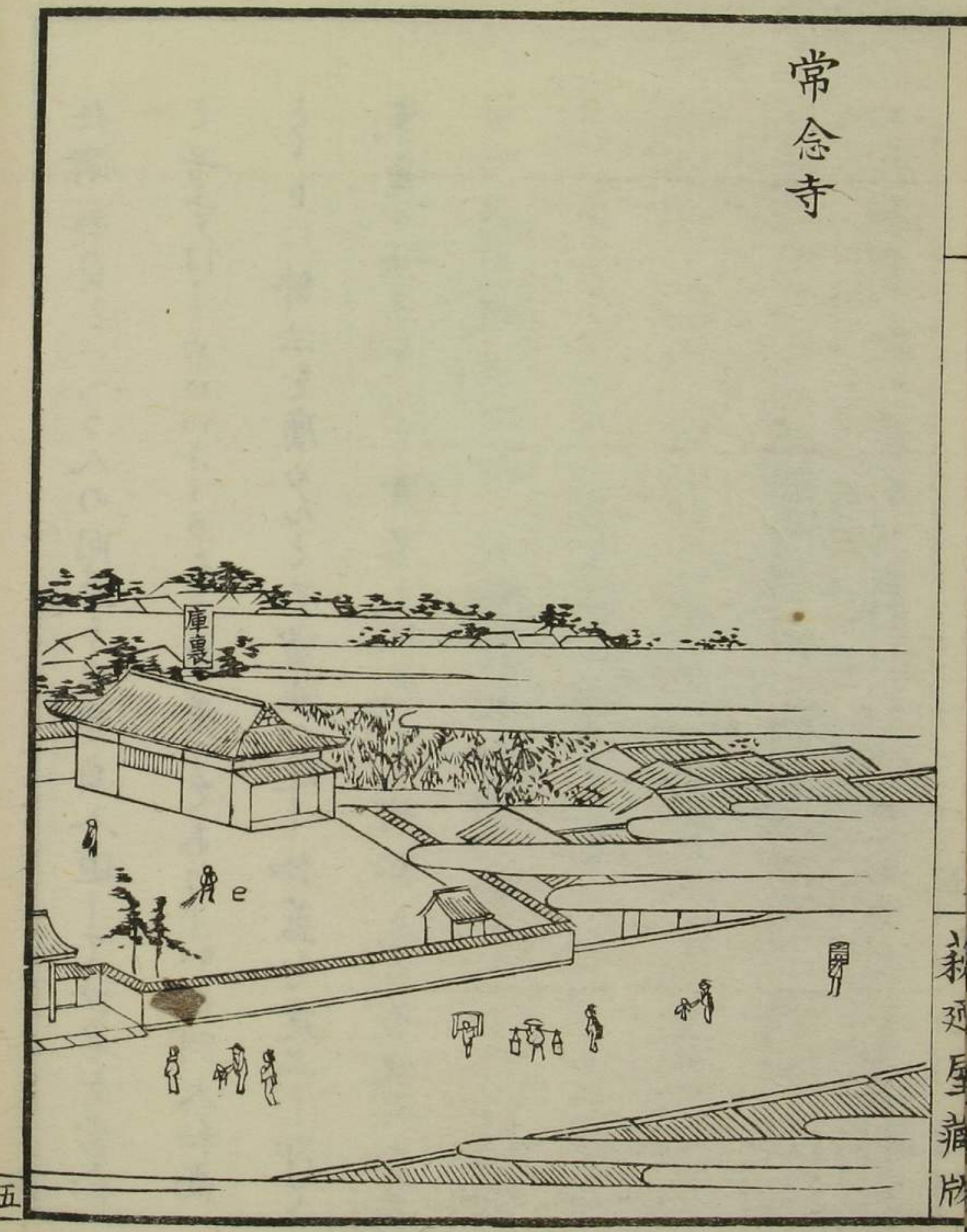
本堂本尊阿彌陀如来に慈覺大師の作として脇士觀音勢至に大佛師康猶の作り開山の覃蓮社信譽上人西阿大和尚といふ相傳ふ當寺ハ中古天文年間古菽に在て阿部藤

兵衛家貞といつる人の開基たり家貞入道して法名を常念と号すはしめいさうのちる草菴とありしか西阿大和尚とくはに佛法を廣めんとて當地へ遷し伽藍を建立し即て家貞が法名を以て寺号とに夫より阿部氏の菩提所とませり其後慶長の初 天樹公御城地を觀むると菽の地へ下向しむひたる時暫らく當寺に宿りむひて日出度御超歲あはせ玉ふ是より依りて年々寺糧三十石を寄附し玉ひ伽藍等より莊嚴を極むかる由縁を以て是より後正月三元日の間ハ佛前の勤行を止む是則ち永代の吉例と



六
 大
 西
 屋
 歳
 坂

常念寺



五

新
 延
 屋
 清
 片

蘇州府志卷之五

して當寺の規模をりとする其後又渡邊飛驒桂河内粟屋肥前

赤川筑後兼重和泉寺五人の菩提寺とする近頃浄光院殿越前守秀

康隆芳院殿同患昌公の兩牌を本尊の側らに安置す

本門ハ元と京師聚樂亭の御裏門をりしを賜りて移し

建つと云木工師飛驒里甚五郎が作りしを此門の鴨居に

彫刻し二匹の獅子夜々市中へ出て野菜を食ひ荒し

によりて釘もて打付しと云と世俗のいひ傳ふる所なり

本堂額 長榮山 佐々木玄龍の筆

寺寶 當麻曼荼羅一幅 惠心僧都の筆にして本朝三幅

の一なり元城州山科の空也院の重宝なりしを彼寺類廢し

およびて石田宗味といふ人曼を求めて當地に來り住居の内

死す其男久兵衛といふ人父の遺言に依て當寺に寄附せりと

云頃ハ承應の三年なりと傳記に見ゆ

渡口 いまハ今の石橋の邊より松本船津への舟渡あり

依て此名を稱す寛永頃より川の中へ洲出きて終に一村をふ

し土原と号けられしと貞享元祿頃の菽画圖にハ全く家

屋立並ひし猶も今ハ今の粟屋氏と田中氏の間より船

津へ舟かよひせしものなりと口碑に存せり

蘇州府志卷之五

二江夜雨 一雨一八重とぎ八勝のひとりて同所をいへり

護龍山法藏禪寺 弘法寺の馬場末にあり洞家の禪室より

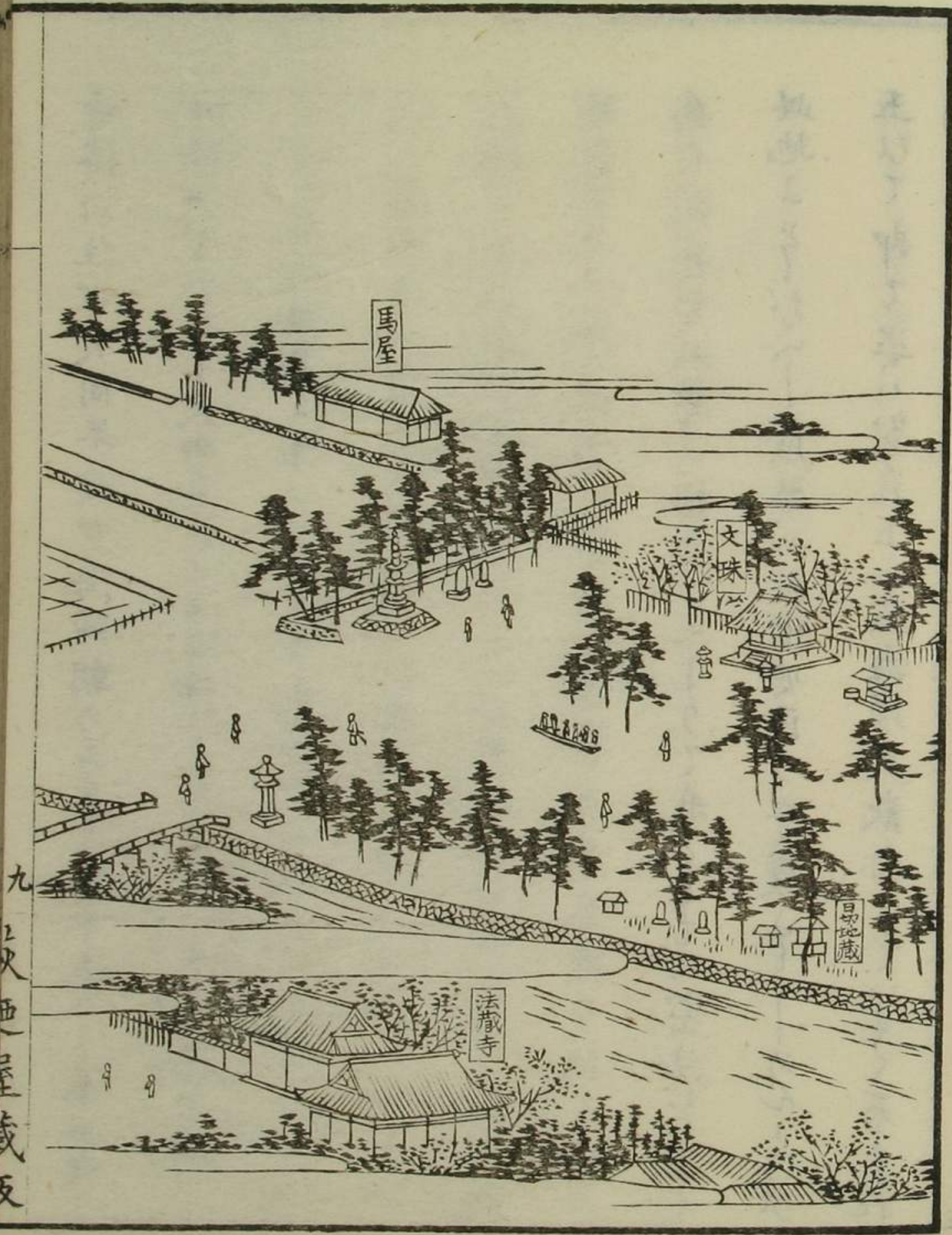
て海潮寺に属し本尊聖観音ハ聖徳太子の作りて大内義興の護持佛なりといふ開山ハ義相本節和尚より中興ハ鉄酸傳鷲和尚より相傳ふ鉄酸和尚御國中一切經の廢るを憂て防州厚狹郡船木村觀音寺といへる舊跡を興し慶安年中當地より再建しと云

寄船山弘法寺 阿弥陀院と号し同所河を隔て浮島よりあり

古義の真言宗より満願寺に属す弘法大師の開闢の梵字よりて大同年中の草創といふ中興ハ阿闍梨隆澄より

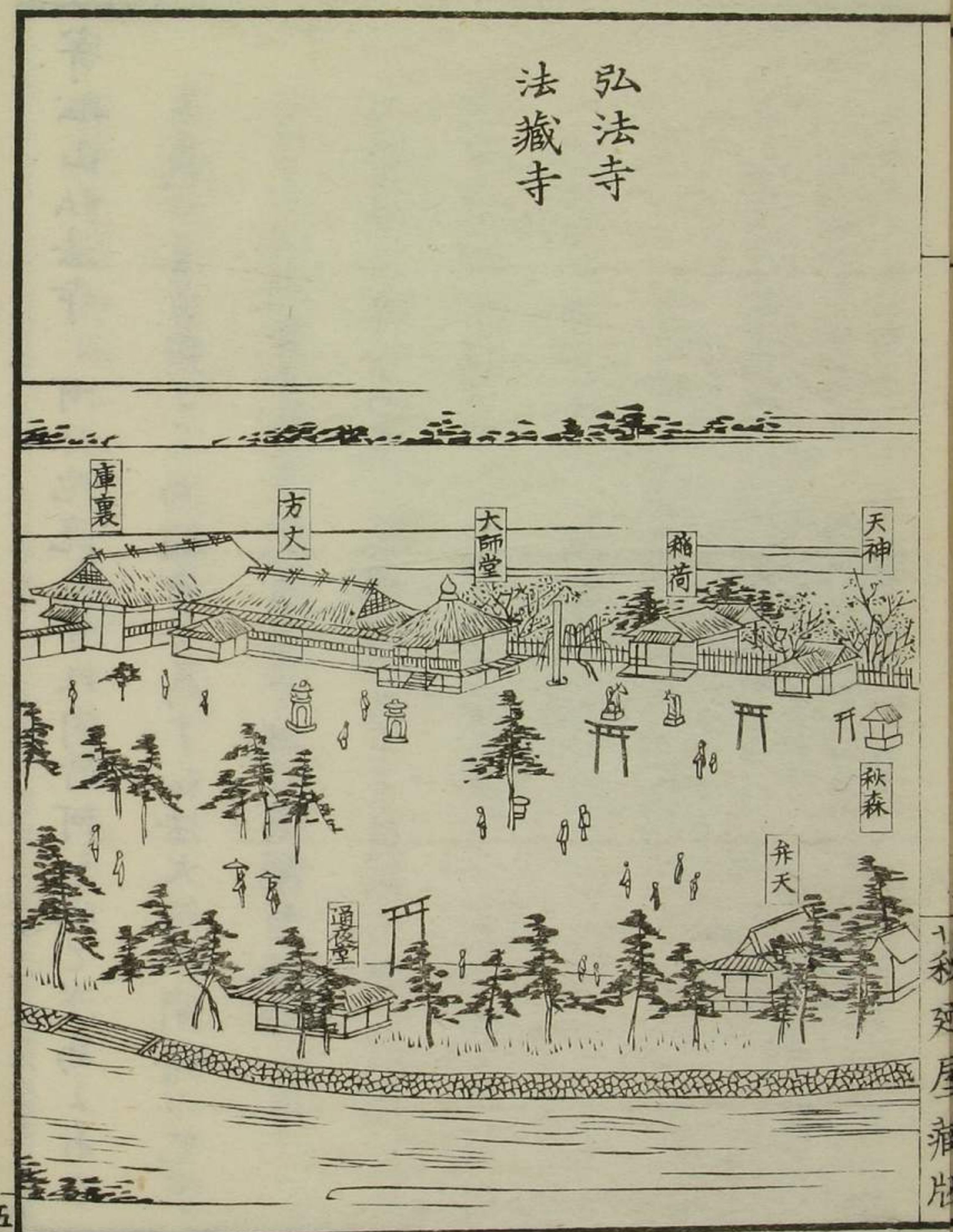
大師堂本尊の石像ハ空海の自作なり佛殿本尊正観音を佛工運慶の作といふ例年三月廿一日より同宗の僧侶集會して御影供養を執行す世俗弘法祭といひて老若の貴賤に羣參すること稻麻の如く七月の廿一日より大施餓鬼

流灌頂を執行す 此日參詣人納涼をかたよりて陸より行むのハ場中狹しとかこち舟より出る人ハ繋ぐん岸よりと争ふ或ハミセものヌハあき人の声かこもり利を圖ひて夜のおくろをあらす賑すひたり



九
 法藏寺
 馬屋

弘法寺
 法藏寺



秋森
 庫裏
 弁天

寺傳曰往古大同年間空海歸朝のみきり海中俄う暴風發り
逆浪天をひくく大雨真志くら降り出てどろどろん湊を失ひ
よその舟此島に漂ひつきり先舟中の無難を祝して此島
よ一宿をちりよる夜の更ら比夢中の貌姿美麗なる天女
出現し玉ひ我の乾坤開闢より此島に跡を垂まると地主辨
財天女ちり汝の阿古の蒼海に漂流し危難を救はんの
為め則舟を此島に招きよりて我とともに密法を永く
此地よとむへ庶幾ハ救世安民の守護とすめんとし
玉ひて即て姿ハかくれ玉ふ空海須臾歎稱していとくあそれ

辨財天女
阿古の蒼海に漂流し危難を救はんの
為め則舟を此島に招きよりて我とともに密法を永く
此地よとむへ庶幾ハ救世安民の守護とすめんとし
玉ひて即て姿ハかくれ玉ふ空海須臾歎稱していとくあそれ

懇るる靈告くれ我真言の密法や感通よん誠し尊ふへ
きことちりして即旃檀の木を以て尊像を彫刻しまご自
作の石像をもともに此島に安置せしめりさるるなよりて
寄船山弘法寺と号しとす

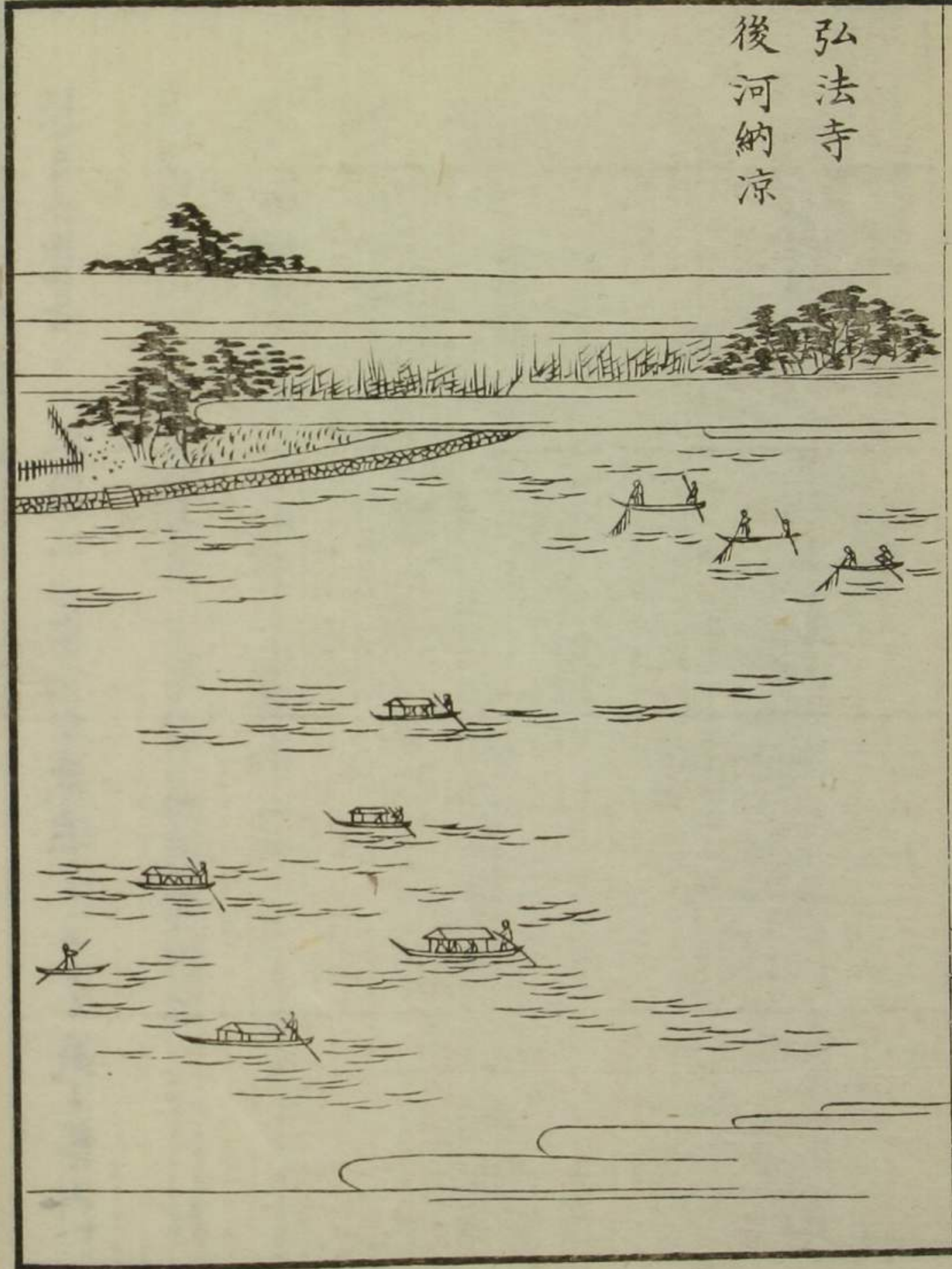
文珠堂 手水屋の西に並ぶ本尊 日限地藏堂 同所に向ふ此本尊地藏の石ハ有信の輩

何日と日限して誓願をいれハかちりて満日よりて功ちといふことな

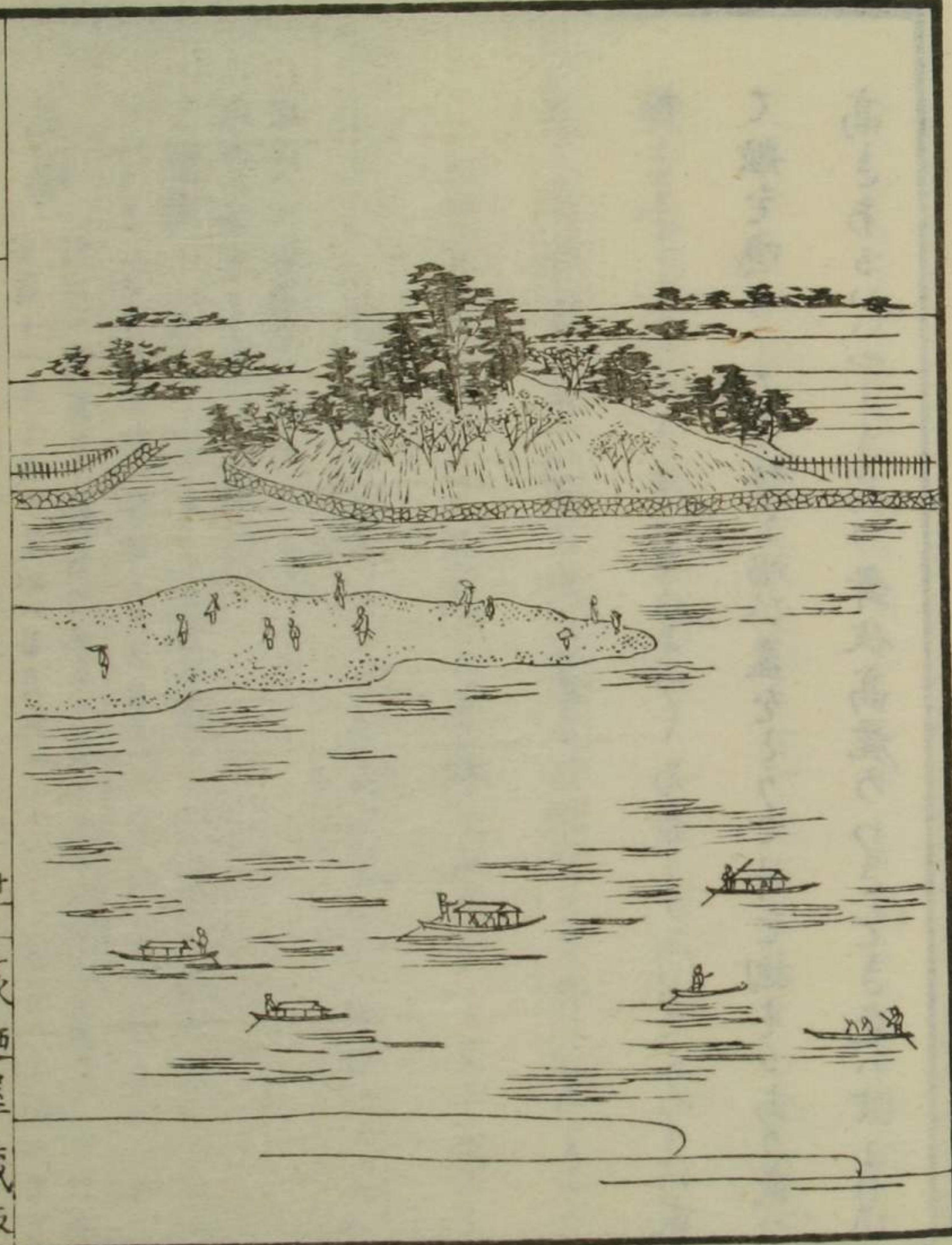
浮島辨財天女堂 大師堂より巽の方あり祭礼ハ三月七日ちりり近來八月朔日とせり縁起は曰此弁天女ハ當所の地主神よて應護元量の中よ火水風病凶盜危の七難を救ひ玉ひ衣食住財開運元病長壽の七福を授け玉ふ靈瑞の著き尊体よて則弘法大師密法を施行ちり

十
次
延
屋
藏
版

弘法寺
後河納涼



弘法寺
後河納涼



弘法寺
後河納涼

馬場

宝曆十一年に成る其始ハ毎月馬市をたて諸所の馬飼郎馬を引出て賣買せし繁昌の地なり借馬土弓料理茶店等ありて尤賑ハへりといふまに明和二年始めて芝居興行すをのち文化十三年の秋より歌舞伎からり人形などの芝居簡屋なども賑ハひ繁栄しうろ文政の十四年よ止められ其以後ハ騎射の稽古場を建たれり

弘法寺川

廣大なる流れにして川幅およそ百間ありぬへ

四月のまつりよりハ市中の貴賤夕日よ汗しきり棹とるくに酒肴を携へ樽の前に暑さを洒んとそ舟ハ汐のまみく棹さざりてのかり岸ハ舟のまみくをさうりみりてうろり或て舷を鳴らして今様を唱ひ盞をとりて月を掬まるあり或ハ高きあるはいやき長の舞伎高麗のわさをき色ハ波よ白ひ

声ハ空よらんすこのちる貝拾ふ少女ハ干潟よ立て羅綾のきりかたを粧ひ錦繡の裳ハ嵐よ飄て洲沙よ映せり樓船扁舟ところせく実よ納涼の第一よて晝夜の差別なり

總源山海潮寺

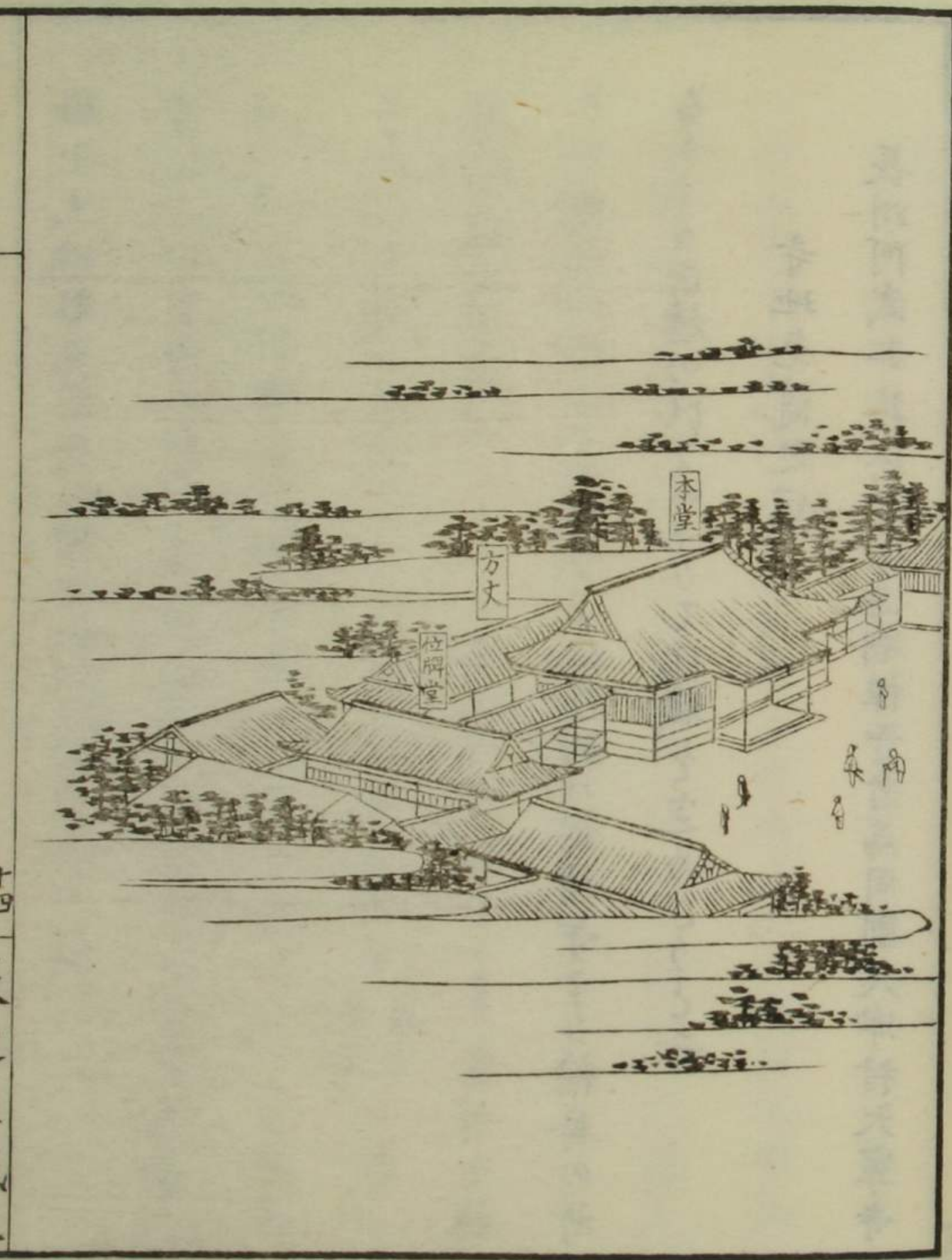
魚店町をち東の角よあり曹洞派の禪園ニ

て能州総持寺よ属に慶長年間草創して開山ハ不見妙見大和尚といふ

不見和尚ハ雲州三沢村の産俗源姓よて九才の時総持寺住職三光國師よ受戒二十才して相州圓覚入拙和尚を師とて捨髪して弘治年中本寺十九世の住職となり後よ當地よ来りて當寺を開山す元和のころ寂に壽八十才

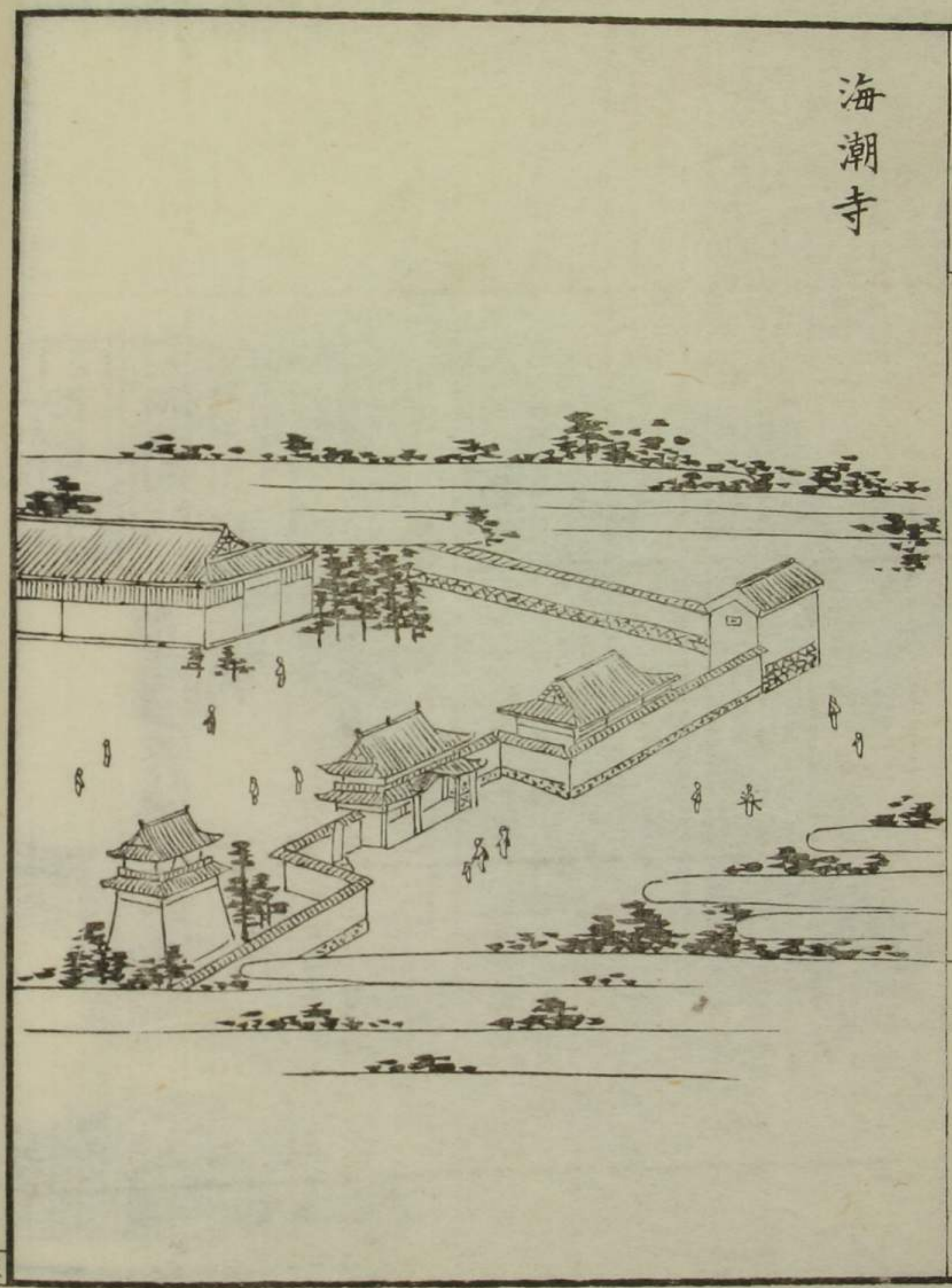
本堂本尊千手觀世音菩薩ハ佛工定朝の作

九十坐中十三仏カ士も定朝の作



十四
 火
 西
 屋
 殿
 反

海潮寺



五

新
 延
 慶
 清
 片

脇士文珠勢至普賢ハ佛工近江の作るうといふ

寺記曰當寺ハむう一應永年間の創建うて石州湯津或ハ

温泉津ニ在テ湯津山海藏寺といふ古刹ありう慶長

の初め當地ニ由縁ありて先松下市安養寺今廣ニ移

暫時假堂を設けありう當地御繩張のとき當所を賜

りて建立に即て今の号ニ改む初ハ總持寺より輪番の所

ありう正徳の比ニうりて住職を定めると云

寺地免簡之寫

長州阿武郡萩総源山海潮禪寺者為同國大津村大寧寺

脱字カ也這回現住本了関東直觸門葉支配相願于茲又防長三

寺決談之上兩國主命無相違旨有國老安戸就宗添翰矣

因茲遂於品評準於類例而関東三寺之直觸國內門葉之

支配免許畢向右且嚴守 公廳之憲章保護宗門之法式

者也仍免簡如件

正徳乙未三月三日

龍穩寺承天印

總寧寺峻嚴印

大中寺益州印

石塔

本門の左塀の内ニありノッラ石ニて碑面ニ北条氏直室林大方
乘讚院殊溪栄法大姉寛永七年庚午六月廿七日と刻む

同一基

左にちらふノツラ石ユ一碑面ニ同息女称姫路高正院
運悟妙慶大姉寛永十八年辛巳十一月九日とちりむむ

本門の
柱掲
乃聯
夕毛の再々生剝芳楓并入

化蝶の轉る又は逆歩の象

本門の
前掲
衆善奉行

諸惡莫作

額一枚 総源山海潮寺

肥前天草東向寺泰林筆

長存山護念寺

同所より少く西より浄土宗より長壽

寺に属す開山の長存大徳大和尚といへり

俗姓ハ福井氏あり

當寺ハ

慶安年中の建立より則開山長存の二字を以て山号と

は本尊阿弥陀の三体ハ聖徳太子御作脇士ハ觀音勢至を

とむるハ本寺の境内にありとることを

詔興山妙性寺

長壽寺の裏門に對ふ日蓮宗より京師

妙満寺に属す本尊ハ秘佛より深く厨子の内に安置

せり脇士ハ多寶釈迦等あり大永年間の草創あり開

基ハ江戸池上本門寺六世日純上人より大内家の菩提

所ありといふ中興ハ常住院日辰上人といふ相傳ふ當寺

備後國尾道にありて浄雲山詔興寺と号し慶長の始
 天樹公御打入の時日辰和尚を御供に召されてまづ山口に
 遷し建つ後當所へ轉じ其頃ハ妙永寺 過去帳に井原彦右衛門何某法名妙永とあり
り則井原氏の菩提寺として といへる大地よりて寺内は脇坊
 當地へ迂り来るより見へたり といへる大地よりて寺内は脇坊
 といへる所の梵室あり号して圓樂坊 聖徳太子を安置す 真如坊 大刹を安
 置に を安 といふ處にいつの頃より廢失して今の如くま
 かり即ち本尊ハ相堂に安置し奉る後明暦の比今の寺
 号に改めたりとぞ

寶物一軸 當寺二世日祐上人參内の時賜りし律師の宣

旨より

寛文八年八月二日中納言源通名
 右少将藤原資廉云々とあり

番神堂

天照大神 熱田 諏訪 廣田 氣比氣多 鹿島 北野
 貴船 八幡 加茂 松尾 春日 平野 吉備 大比叡
 小比叡 権現 聖真子 八王子 住吉 祇園 赤山
 三上 健部 兵主 苗荷 客人 稻荷等あり

常樂山鶴林寺

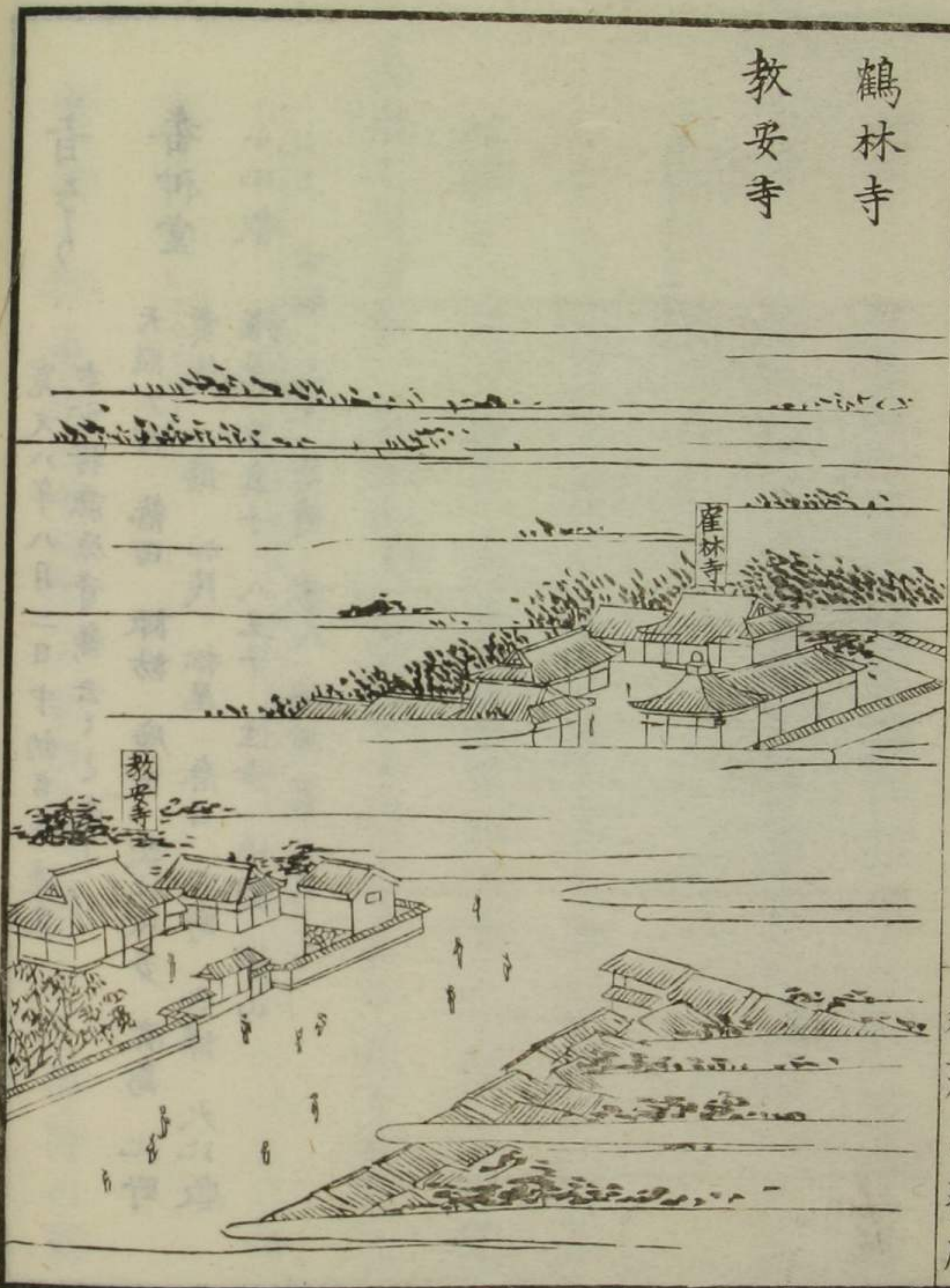
塔社のうしろかきあり古義の真言宗より

満願寺は属に舊くハ玉江にありて白林寺といひしとぞ寛
 永のころ今の地へ移りて号を改む中興ハ法印良順より
 開基詳りるべし

本尊ハ不動明王の画像智證大師の筆日本三幅の一といふ
 脇士ハ文珠薬師よりて弘法大師の作りといふ客殿の額



鶴林寺
教安寺



利延
屋
齋
片

佐々木玄龍の筆あり

観音堂

本尊如意輪観音は是萩七観音の一として七番目なり詠哥
おのつりら西吹風は勢の改修の林代をまきしき

靈光山教安寺

同所對ふ角あり鎮西派の浄土宗として

常念寺は属に本尊阿弥陀如来は聖徳太子の作として開山

は性蓮社見譽心嚴和尚なり相傳ふ元禄元年の建立より

て願主は河野壹岐といへる人なりといふ

來陽山梅岸寺

同をぢりて仲の町の北の角あり鎮西

派の浄土宗として常念寺は属に本尊阿弥陀ハ佛工春日

の作として脇士ハ観音勢至なり開山ハ教安寺五世覺蓮

十八
東
屋
齋
片

社往譽字ハ良閑和尚隱居せしうち當寺を建立しといひ
 寛延の頃雷火の爲ニ燒失して傳記等詳らざる昔ハ寺
 内ニ一株の梅樹ありて周り二圍にあまきりと里老の言傳
 る所なり今門内左側ニ梅の小木あり昔の傳をのこし
 太子堂 本堂の左ニあり本尊ハ聖徳太子の御自作の尊像なり

太子堂の額
太子堂

浪速四天王寺
 一掲る所
 同

華表
 一掲る所
 三所
釈迦如來轉法輪所
當極樂土東門中

瑞光山無藏院 同所向ふ角ニ在り鎮西派の浄土宗ニて
 常念寺ニ属す本尊阿彌陀ハ惠心僧都の作り開山ハ心
 蓮社玄譽助給和尚より相傳ふ助給ハよりめ報恩寺の住
 職より退院して當地ニ一字の草舎をむすび願心寺と
 いへるを開基せりといふ其後阿曾沼因幡といひ人の
 位牌を置て則當寺を菩提所とす無藏道知といふ法
 号の二字を以て寺号とすといふ創建ハ寛永十二年より本
 堂ニ掲るところの額瑞光山の三字ハ東光寺開祖惠極大
 和尚の筆なり

十九
 延喜
 長祿
 天保
 文政
 天保
 文政
 天保
 文政

稻荷社

本堂の左梅岸寺に向ふ

祭神

大宮姫命 大田中命 倉稻魂命 大己貴命 神功皇后 以上五坐

當社の此寺の鎮守神として天驗著し例祭ハ四月一日二日世上の人羣參りて最賑ハヘリ

馨香山本行寺

仲町をくだりて同所より東の方より日蓮

宗よりて京師本能寺尼崎明光寺の兩院に属す本尊ハ

南無妙法蓮華經の題目を安置し脇士ハ釈迦多門天より

開山ハ日靈聖人といふ當寺ハ元和年間の草創より初め飯

田町よりありて妙福寺といふ後當所へ遷りて今の号に改む

開基詳くあるねと石塔に慶安□年と記しあるハ大いハ

此項に建立しあるへ

吉運山亨徳寺

同所の右角にあり曹洞派の禪園よりて山口

龍福寺に属す

本堂本尊ハ釈迦如来脇士ハ善財童子八歳の像より開山ハ

石屋天雄賢束和尚より

永正の辰辰に

相傳ふ當寺ハ往昔真言律

宗よりて亨徳年間の開基といふ後元龜の頃宗風を轉り

て洞宗とあり元江向に地を賜ひて建立す

當寺存まると所の古書に江向に於て寺

地免許と書す按るると今江向地免といふ名も此証文より言ひ習とてそのこととほ月々今免を面に改む

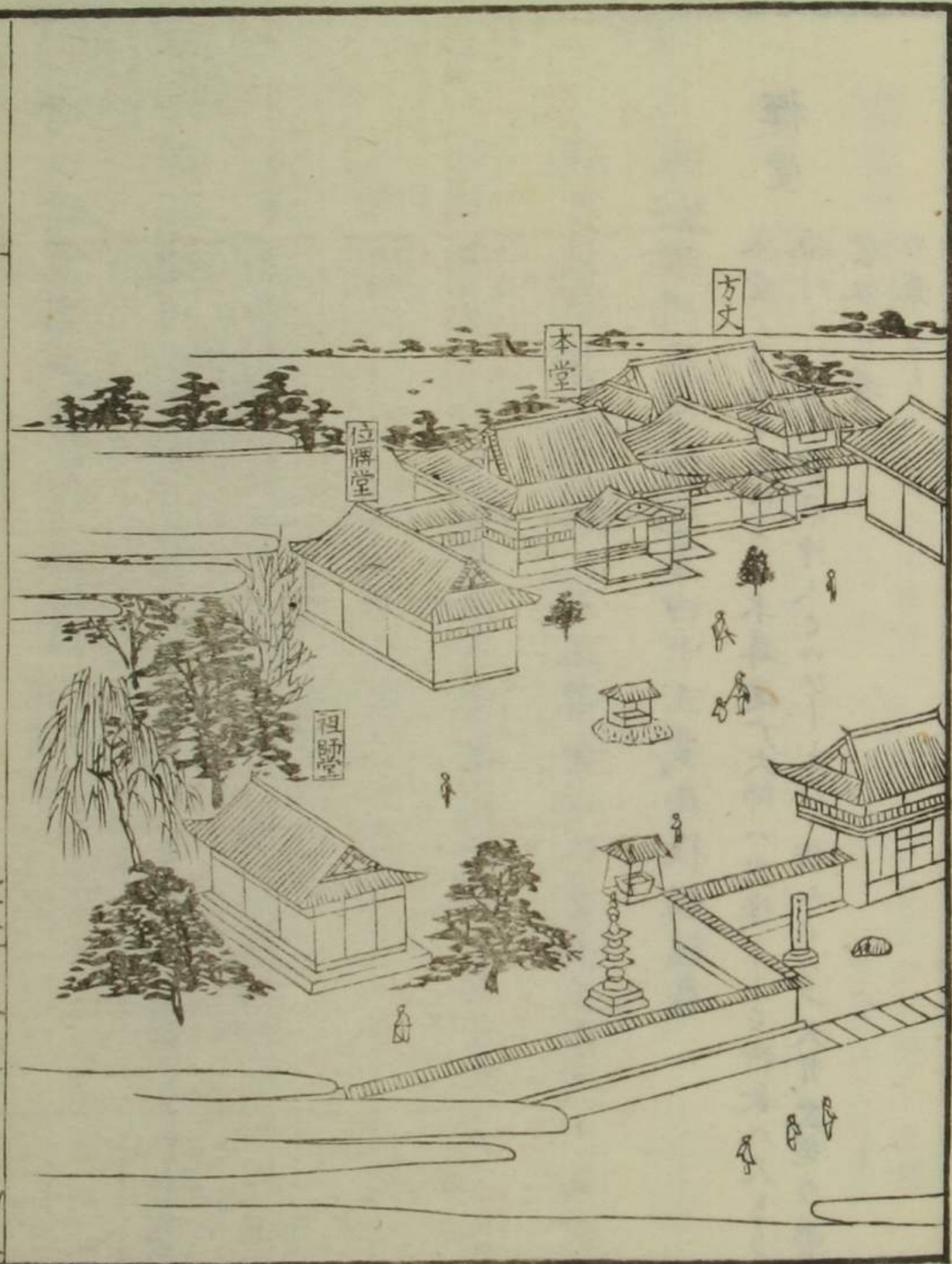
慶安の比火災

より罷りて舊記過去帳の類焼失し詳くあることあるは

承應元年今の如く再建せり

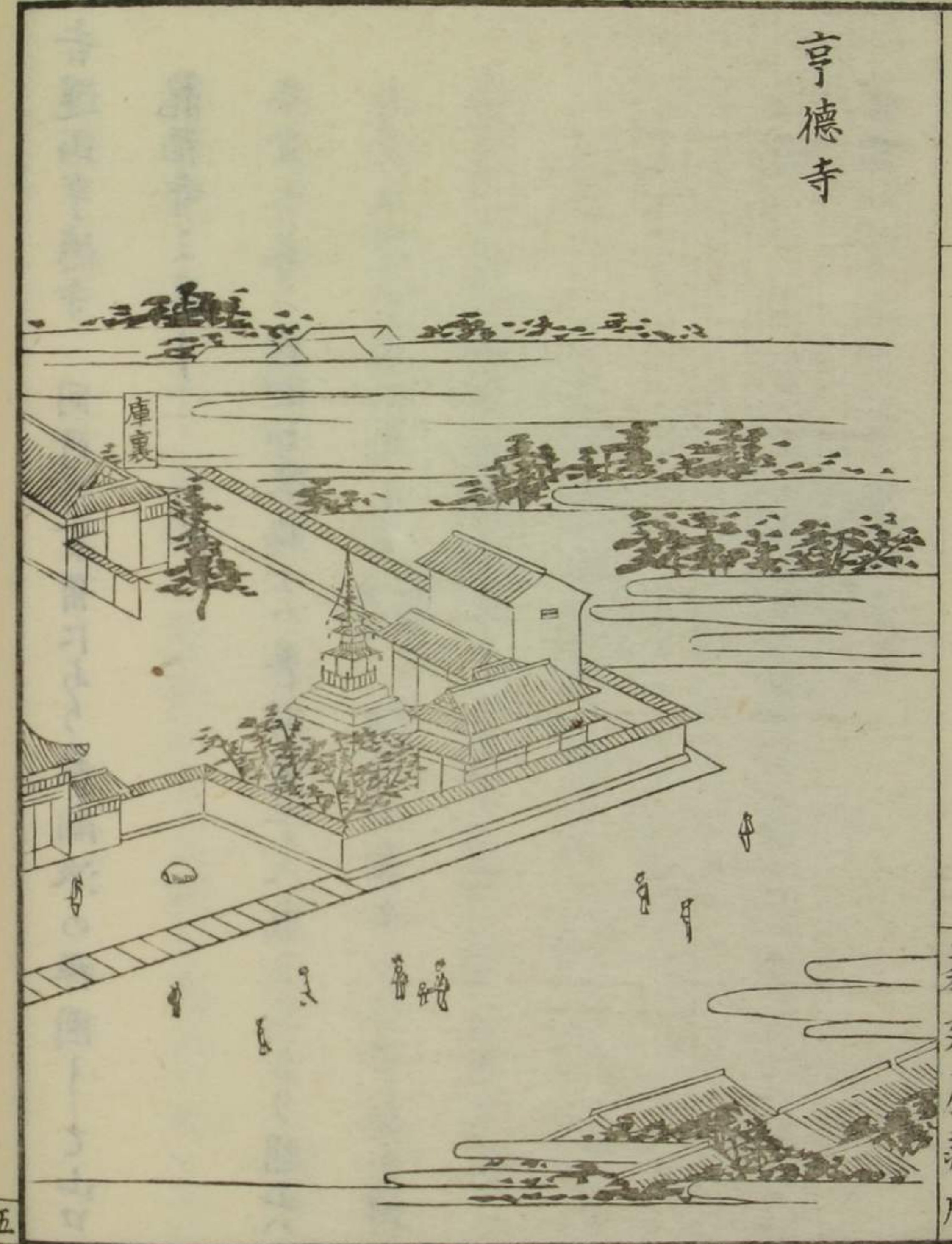
延慶寺

延慶寺



二十一
 大
 西
 屋
 成
 反

亨德寺



新
 延
 屋
 成
 片

當山建置志并序左よあるに

住僧雲外の書
記する所あり

予嘗遊防州阿弥陀院寺之日開山俊乘坊重源因立鉄塔
安佛舍利并志寺記塔基而到今五百歳儼然不朽予今效
之乃贅此志永以備寺門後鑑云々慶安二己丑年四月廿
六日回祿承應元春夏宗天再造宝永四丁亥七月五日前
永井後泰雲大林第一世見當寺六代曹洞正宗三十五世
傳燈沙門雲外諱龍峯四十五歳為後鑑謹書

禪堂

本堂より南すこにあり本尊達大師ハ坐像として御長八尺あり
椿村ハ住せし袋求淨人といひしより作ことよ天井雲竜の画
雲谷等璫
の筆あり

迦藍神佛壇

本尊大権修理菩薩
右り本堂の傍あり

山門

本尊盧遮那仏脇士ハ文珠
普賢十六羅漢等を安置に

同額 吉運山

黄檗獨立の書する所あり

壽榮山保福寺

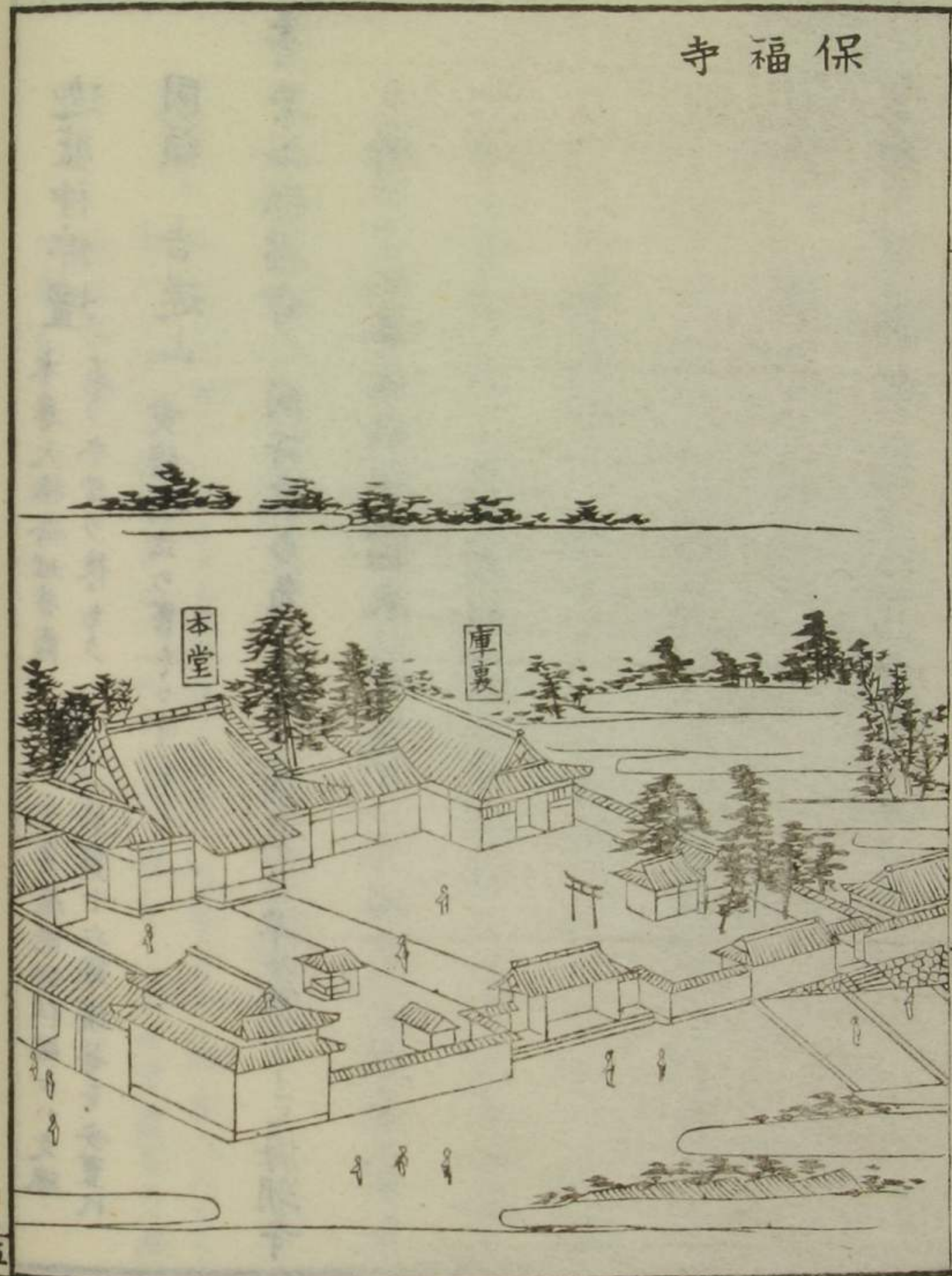
同所東の角にあり洞家の禅窟として海潮寺

に属せり本尊華嚴釈迦如来ハ安阿弥の作脇士ハ文珠普賢に
相傳ふ當寺ハちめ防州都濃郡久米村にあり一原始院と
いへる草菴を迂一ハ所あり一ハ衰廢に及ひて久しく中絶
を元和六年よりり海潮寺十二世白巖良傳和尚當寺を
再興して建立する所あり

客殿の額壽榮山の三字ハ佚山の筆あり

三十二
火
屋
蔵
版

保福寺



保福寺地藏

七月廿四日八地藏
 井の縁日とて貴
 賤の老若群集
 て夜の更るをあら
 此日当寺に雛棚を
 かさる羨みき

見ものあり



保福寺
 雛棚
 見物

粟島明神社
西久寺



禪堂

本堂の西にあり本尊地藏の両仏ハ石像にして身長三尺あり
年毎の三月廿四日ハ市中の老若貴賤となく参詣群集に

山縣先生墳墓

禪堂より乾の方堺のきハあり
碑面ハ周南山縣先生之墓とあり

月光山西久寺

新町中の丁南よのちる角あり浄土宗にて

常念寺に属し本尊ハ阿弥陀如来にて開山ハ方譽西久

大徳より相傳ふ慶長九年春魚棚町々人近藤露竹とい

へるもの開基之後中絶せし貞享二年に再建す

粟島社 聞譽悦山夢想ふよりて元禄十五年六月廿八日

紀州蚊田より勸請まゝ所あり

北濱山妙元寺 同所より筋濱手あり一向宗よりて京

都興正門跡に属す本尊阿弥陀ハ聖徳太子の御作ニ開山ハ
玄可といふ慶安年中の建立あり開山玄可ハ北條義時の末
裔ありといへり傳曰玄可七歳の時より佛門の志ありて
興正門跡の御連枝准圓上人の徒弟となり薙髪して鎌
倉雪の下に住す七條の御袈裟珠數中啓等を上人より賜
とまり後當所より来りて一字を建立し開基藤井長至門
といへるもの、法名を以て寺号とすと云

祐弥山浄國寺 同所ニ在り一向宗よりて京都本願寺に属
す本尊ハ阿弥陀如来開山ハ玄春といふ相傳ふりめ藝

州吉田にありて溪國寺といへり慶長の以防州山口へ遷す
のち又當地へ移轉せりと云

靈松山西生寺 熊谷町中程にあり真宗よりて清光寺に属
す本尊ハ阿弥陀如来ニ開基祐了ハ俗姓三上豊後といふ
ものなり祐了の弟子甫順に當所の寺地を賜ふとをいつ
の比り傳記焼亡して詳ならず

萬福寺 新町下の丁中程西側にあり一向宗よりて都本願寺
に属す本尊ハ阿弥陀如来開山ハ浄頓あり相傳ふ浄頓俗
姓光井左馬頭といへり初吉田に住し洞春公の命ふよりて

難髪一淨頓といふ法号を賜ひて一字の草菴に居住しや
こ本山の末とる慶長年間防州山口に地を賜ふ夫より萩
深野町に遷す後まゝ當所へ轉せりとそ

潮寄山泉福寺 濱崎町吹上あり一向宗として本願寺に属
す本尊ハ阿弥陀佛開山ハ玄修と号し俗姓福間掃部助政
重の三男藤右衛門政良といふ人なり元安藝甲立邑高林
坊に住居すのち同國沼田郡東福邑泉福寺に住す寛永十
八年當所へ來りて當寺を建立す

養空山松巖寺 新町上の丁東側あり西山派の浄土宗より

て長壽寺に属す始大津郡久留村に在り安養寺といふを
遷して貞享年中當所へ建營す則今の寺号に改む開山を
玄空上人徵山和尚本尊阿弥陀如来ハ惠心僧都の作也

不動堂 本堂の左にあり本尊不動
明王ハ弘法大師の作なり

住吉大明神社 濱崎町御舟藏に對ふ萩五社の一なり

神主中津江氏奉祀す

本社祭神ハ長府に在り一宮に同一 表筒男命 底筒男命
中筒男命

天照太神 神功皇后 以上五座あり 清輔ハ奥義抄袋州紙るといふ住言神
玉津島明神と書りされども延喜式ハ
古の宣命といふ住言
三所大明神と書に 社記曰むう承應年間當所濱崎町の町

千六
萩
濱崎町

新編 延喜式 卷之九 船

人北國問屋松田忠兵衛といへるもの浪華へ登らんとて大
船は真帆引順風漕出て既播州の難を過んとするところ
俄に暴風吹起り逆浪天を浸し雨は篠よりも志げくして恰
も暗夜の如し既船も顛らんとまじども便るべき嶋も見え
ば漕寄む渚もあらず今ハ神佛の冥助を祈り奉らんとま
づ泉州堺の住吉宮に誓願をこゑ信心を抽て平安をう
め玉へと祈りしに奇異なるうな白髪の老翁忽然として艦
上へ現われおふと見えより直に浪静くに風浴り夕やこの空
青くもとの如くは晴りて暫くはほとに住吉の浦よそ

漕着る即て神宮に詣て幣を捧け奉り舟中の無難偏
に神助のあらうむる所とがこみく拜し夫より社司の
家を尋て舟中の危難靈瑞の感應始め終りのとらさき
具に物語るハ社司手を打たきいへらく実ハ靈妙不思議
尊きハ既ハ我も靈夢の神告を得る績成成長門とい
へるに屢夢中ハ聞くよとむひて夢覺ぬけよさる幸のあ
りつる御告をうつらんとつらうに物語るを皆ハ奇異の思ひ
をなして倍崇敬怠らと信心をそ抽て即て社司よか
らひ勞國ハ勸請を奉る御社よて海上安全守護の御

二十七 延喜式 卷之九 船

神かり始ハ鶴江臺夷森の傍ニ勧請す明暦三年當所ニ遷
宮ニ奉るまゝ青雲公御信仰ニて釣殿拜殿等結構を備へ
奉まろ或人曰旧地ハ千
本松の所と云

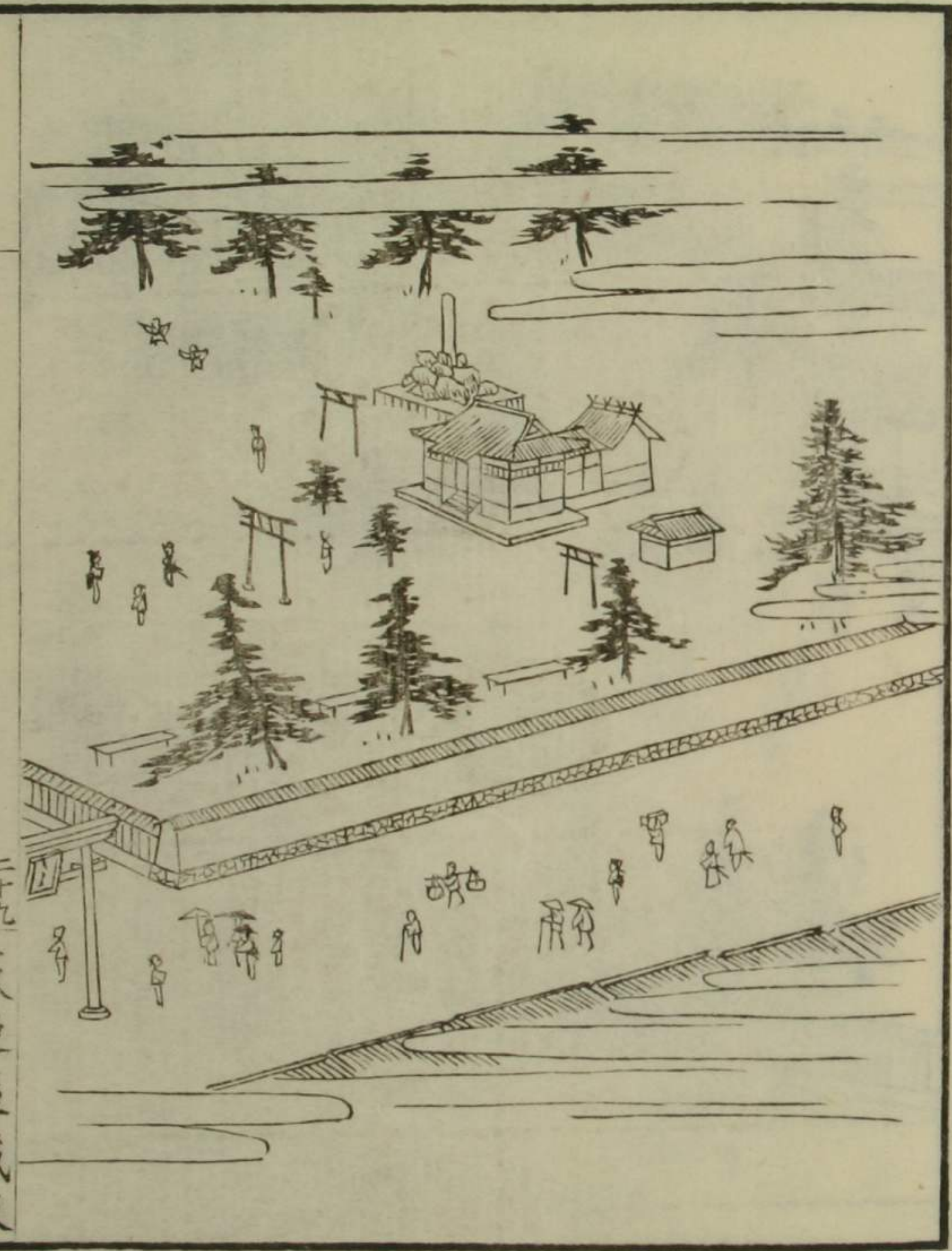
當社祭禮ハ万治二年ニ始る萩市中の随一ニて六月の二十七日
八日あり元禄年中ハ
八月四日五日里諺ニ六月中をまゝて住吉祭と云ふもの

荒増をいんよを萩市中三十六町の内二町宛ニ分ち是を年
年祭事設の西町と云ふ其二町より踊車踊車ハ延宝五年ニ始る
始ハカミスキラドリと云

一乗ヲを牽出さんとて先六月の初の日より一町の内ニ兼て
設おきける空地ニ仮屋を圍ひ哥舞伎芝居の業をきを朝

夕ニ催す是を朝演劇夕演戲と云ふとより見物の貴賤群
集ハ云も更ニ十五日より廿一日迄を藏習と云ひ廿二日三日を本
習と云此兩日ハ大木戸を打て切符を以て見物をやるは是町
奉行よりの控ニ夫より廿四日より廿七日迄のあまゝ兩町夜店
といひて軒毎ニ提灯を掛け燈籠燭臺敷をまゝす所のか
きり照りかゝやきて晝よりも明らけく坐敷の屏風床の掛物
机香炉よるまゝ和漢の書画珍器善美を盡せりまゝ廿
七日の酉の刻ニハ二町の十一人のもの御客屋にいらり町奉行
の前ニ出て末闌本闌と云ふ式あり是ハ牽出ん車の前後

を争はんの怖ありてあり西町東西は相見れてかゝる一
 をと争ふ中みり又一人闖取と号て真先は進之苗の上
 下は不二の画ある金地の扇を手狭し肩眩眼をもうち
 弘て今や進しとた免らひぬかくて廣蓋は符しとる一帖の
 闖持出るより早く相方どつとどめきて更よ二ハかゝる
 たりされども二をとりとる方ハいつの間より己の家こゝを帰
 りて音ちよひれり又一の方ハ群りのとつて千秋万歳は
 一曲を諷し先格の通くと家もくつと計り声々に呼たり
 て立出るを旧例とす實は目覺しとる風情にさそ祭祀

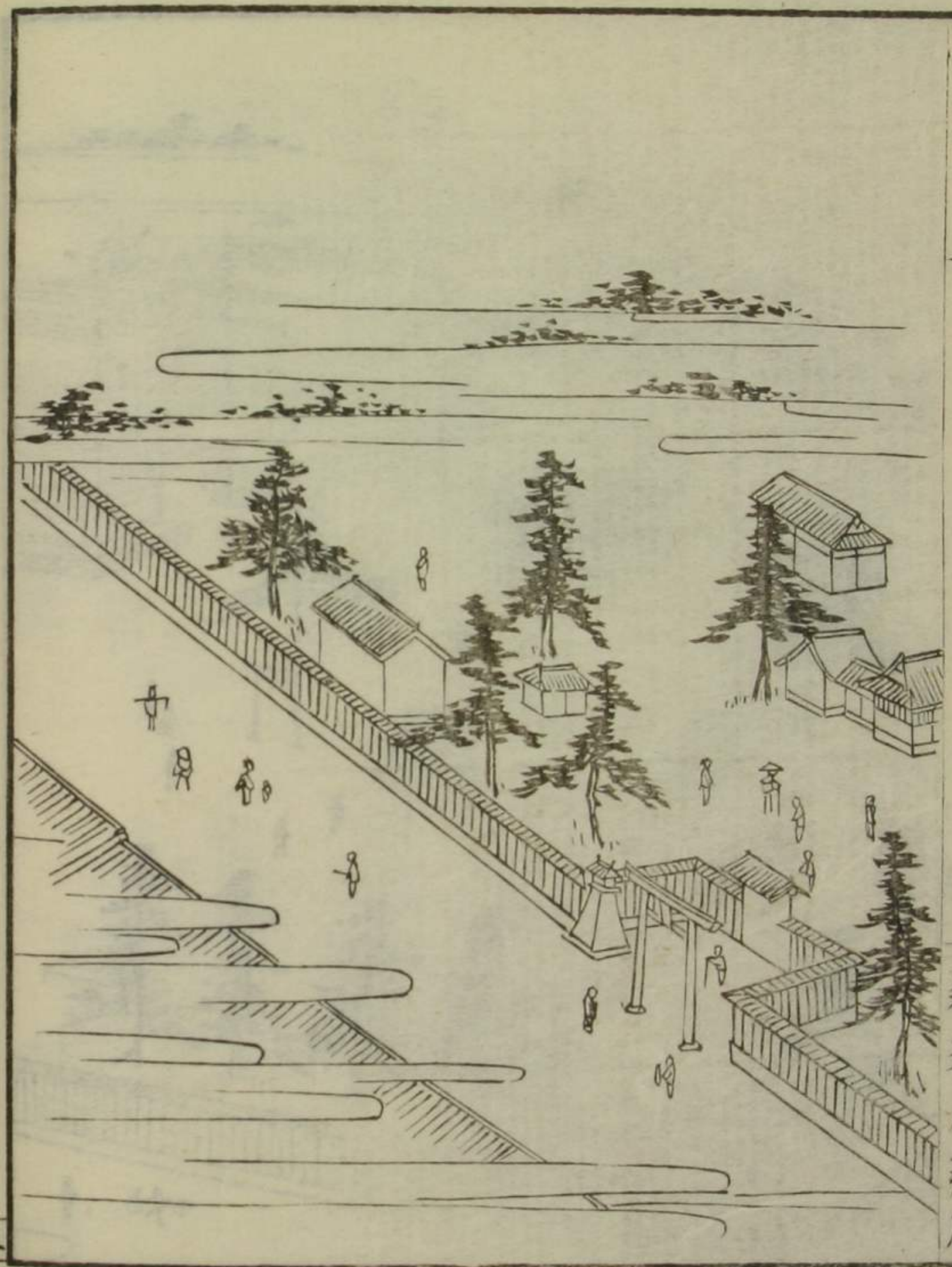


二十九
 大
 屋
 蔵
 反

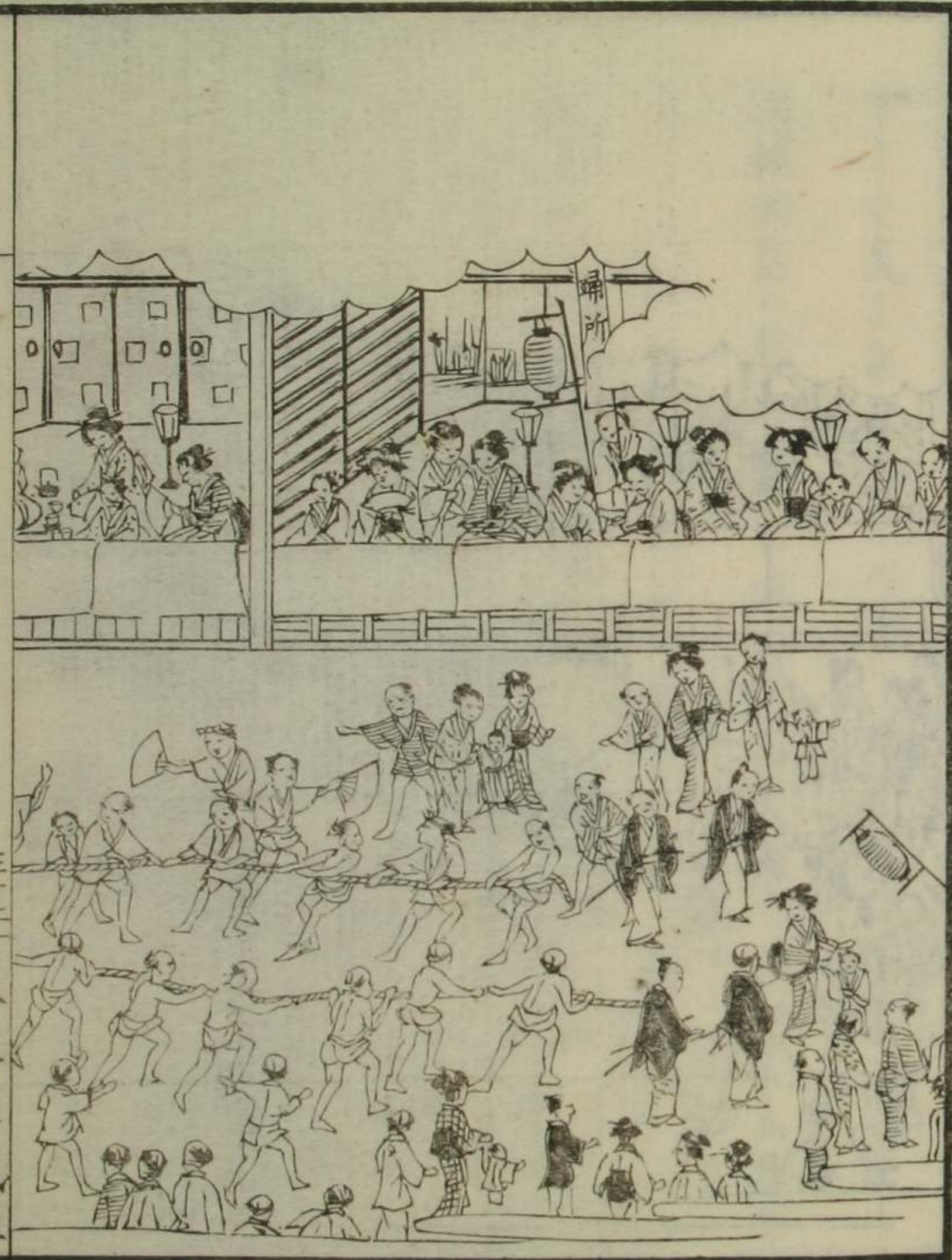
の式をいそんよハ九廿七日の黄昏より賑ハひまゝりて軒毎
 よ連ねたる提灯の火影ハ白晝よりも明らけくかくて夜も東
 雲近くさるゆくはより西町の車を引出る相継て聖人ヒジリの色
 色笠の數々金の幣獅子狛犬といふまで道路を曳もきこ
 ば又御舟ハ鼓貝を鳴して走るを専ら神主ハ日柄傘に
 装束を揮り隨身ハ沓音とて弓を手狭に神輿御幸
 の警固ハ巍々として嚴重に備ふ此日の詣人見物の貴賤近
 きハ更にもいと老々ハ杖もたれ壮々ハ袖もまつのれ
 て我先と幸ひ出いさる幽里速村とりと雖とも速いとせ

三十一ト火

御幸
 神輿
 提灯
 火影
 白晝
 明らけく
 夜も東
 雲近く
 西町の
 車を引
 出る相
 継て
 聖人の
 色
 色笠の
 數々
 金の幣
 獅子狛
 犬とい
 ふまで
 道路を
 曳もき
 こ
 ば又御
 舟ハ鼓
 貝を鳴
 して走
 るを専
 ら神主
 ハ日柄
 傘に
 装束を
 揮り
 隨身ハ
 沓音と
 て弓を
 手狭に
 神輿御
 幸
 の警固
 ハ巍々
 として
 嚴重に
 備ふ此
 日の詣
 人見物
 の貴賤
 近
 きハ更
 にもい
 と老々
 ハ杖も
 たれ壯
 々ハ袖
 もまつ
 のれ
 て我先
 と幸ひ
 出いさ
 る幽里
 速村と
 りと雖
 とも速
 いとせ

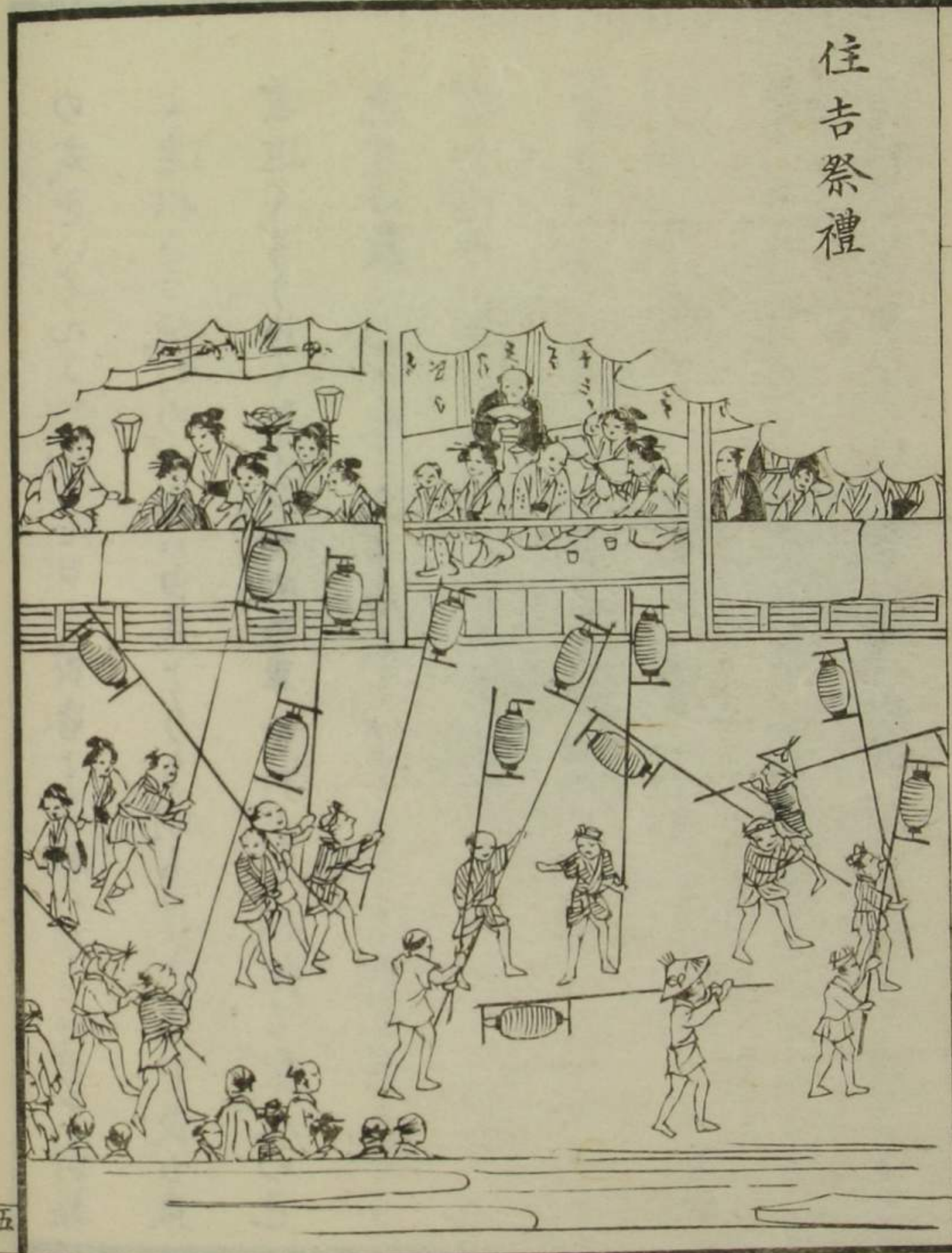


御幸
 神輿
 提灯
 火影
 白晝
 明らけく
 夜も東
 雲近く
 西町の
 車を引
 出る相
 継て
 聖人の
 色
 色笠の
 數々
 金の幣
 獅子狛
 犬とい
 ふまで
 道路を
 曳もき
 こ
 ば又御
 舟ハ鼓
 貝を鳴
 して走
 るを専
 ら神主
 ハ日柄
 傘に
 装束を
 揮り
 隨身ハ
 沓音と
 て弓を
 手狭に
 神輿御
 幸
 の警固
 ハ巍々
 として
 嚴重に
 備ふ此
 日の詣
 人見物
 の貴賤
 近
 きハ更
 にもい
 と老々
 ハ杖も
 たれ壯
 々ハ袖
 もまつ
 のれ
 て我先
 と幸ひ
 出いさ
 る幽里
 速村と
 りと雖
 とも速
 いとせ

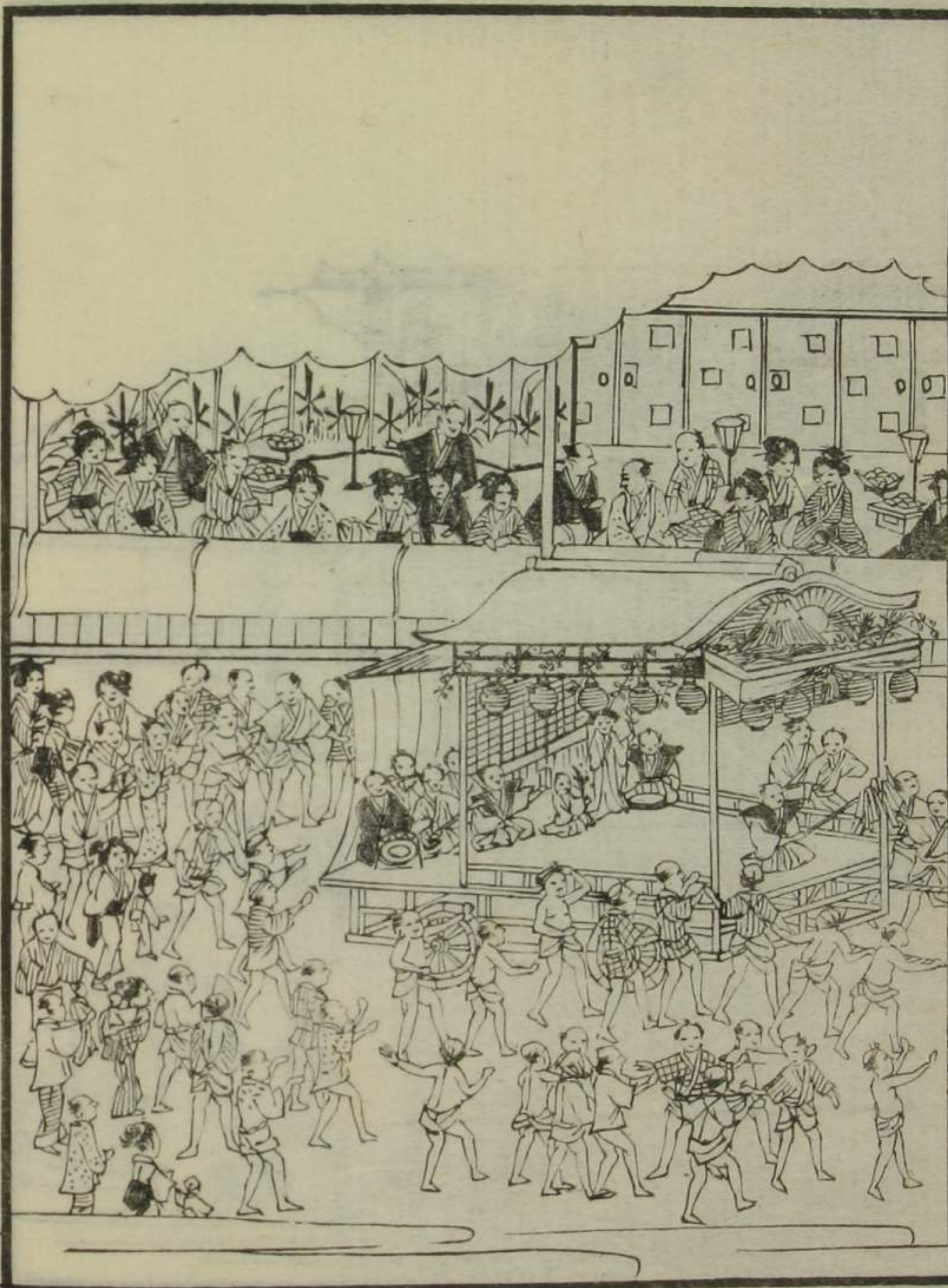


三十二
西
東

住吉祭禮



福所
片



新編 屋敷

すいて爰に集参す境内廣くとくも尺寸の餘地なく
 酒舗肉店ハ軒を連ねて場は充ち菓子を鬻く声ハ紛然
 とて间断を誠ニ壯麗の大祭とてをいふべけれ

稻荷社

本社の左に並み當社ハ元阿武郡須佐村に在せしを万治年中今の地に移し例祭ハ四月十六日此日衆詣人尤群集す所は簡屋をかり哥舞伎人形を出し是を造りたのといふ

夷社

裏門の左にあり元濱崎新町にあり浦人信仰のよきを當社内へはす

寶物

繪馬一枚 青雲公御寄進 同一枚 泰祖公御寄進

具足一領

島田孫介寄進

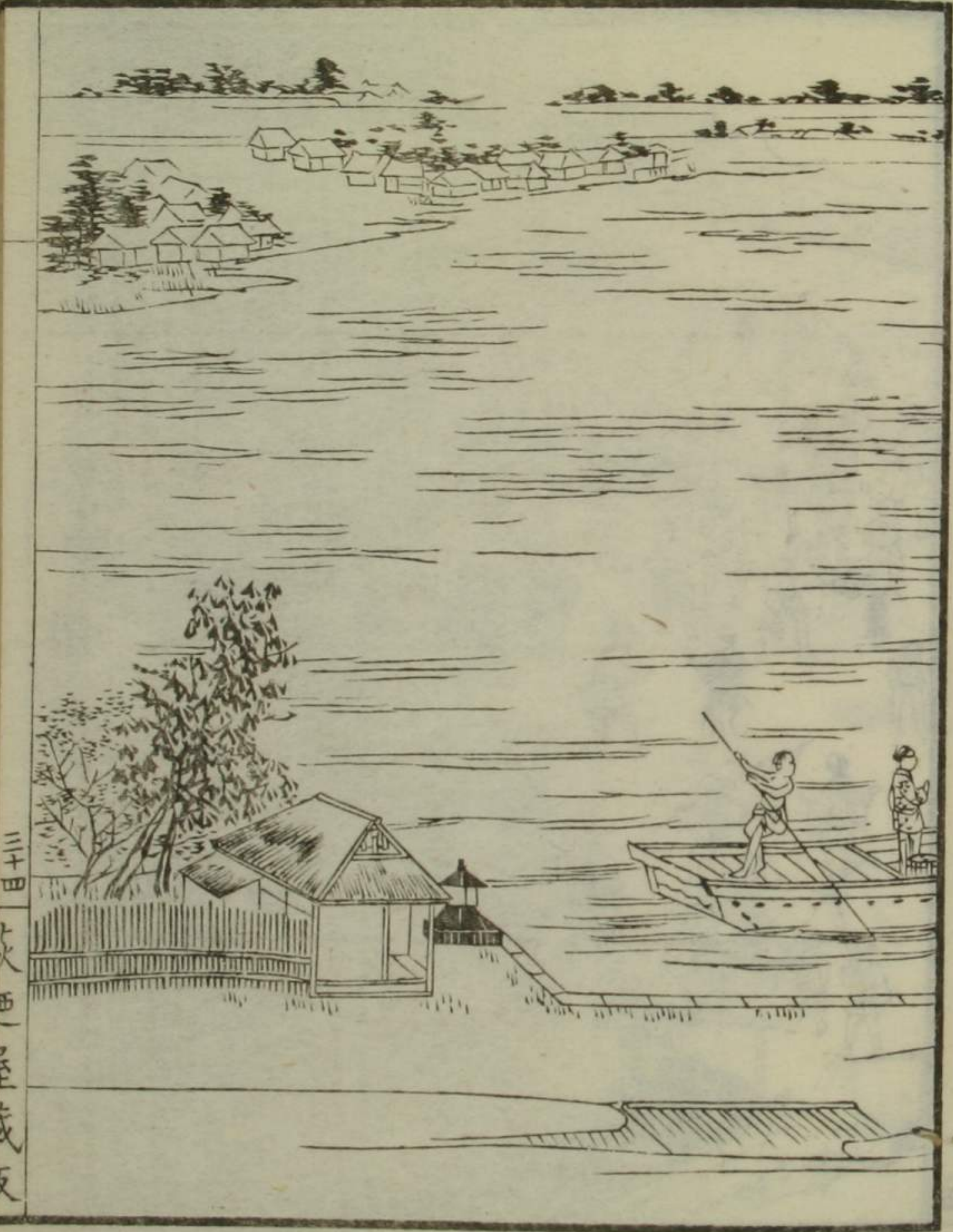
棟札畧

萬治元九月吉辰應舟主等求謹誌焉

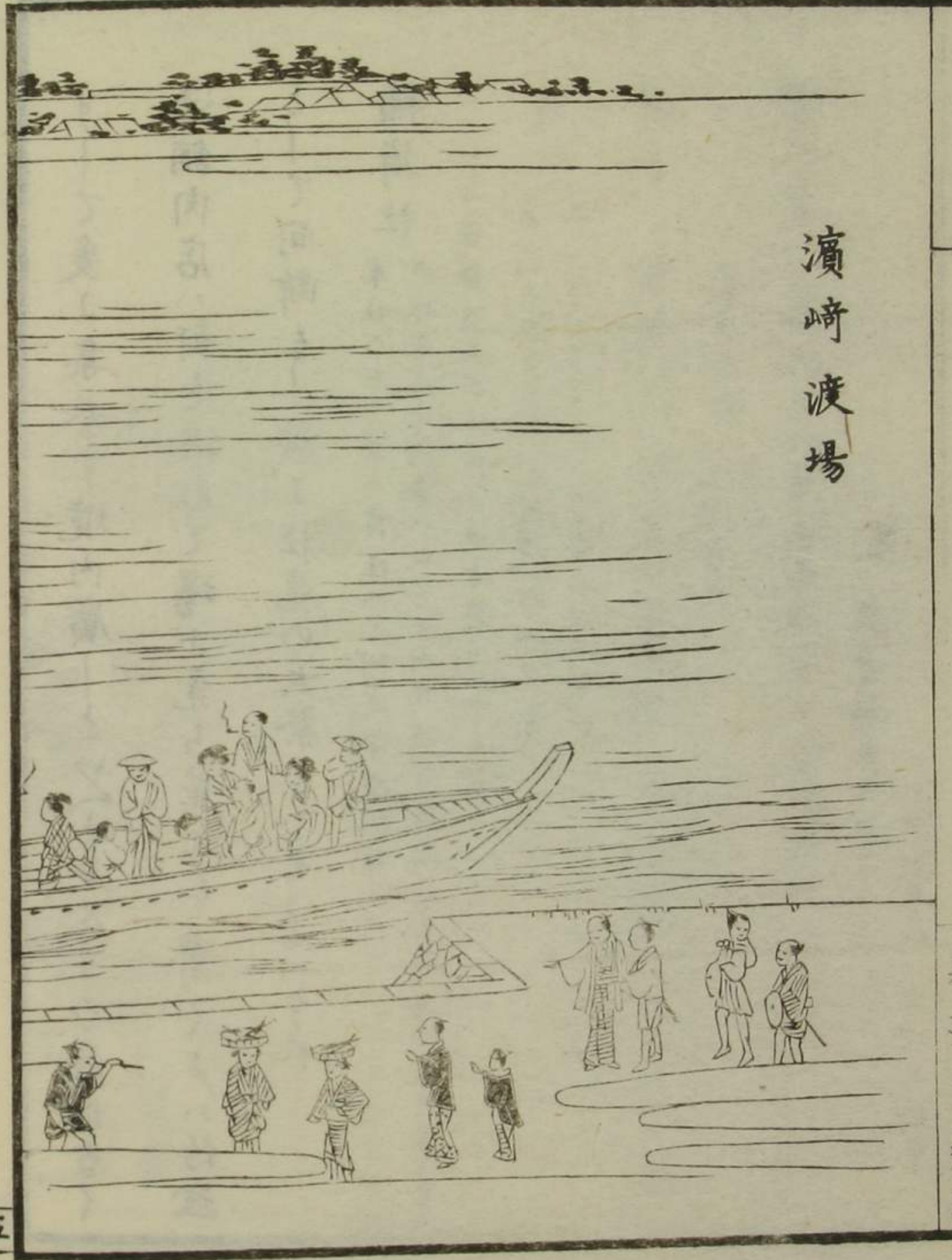
裏 建立大願主松田忠兵衛並

田原四郎左門 濱崎舟持中

三十三
 四十八
 大
 長
 反



三十四
 舟
 屋
 橋
 坂



濱崎渡場

五

新屋藏版

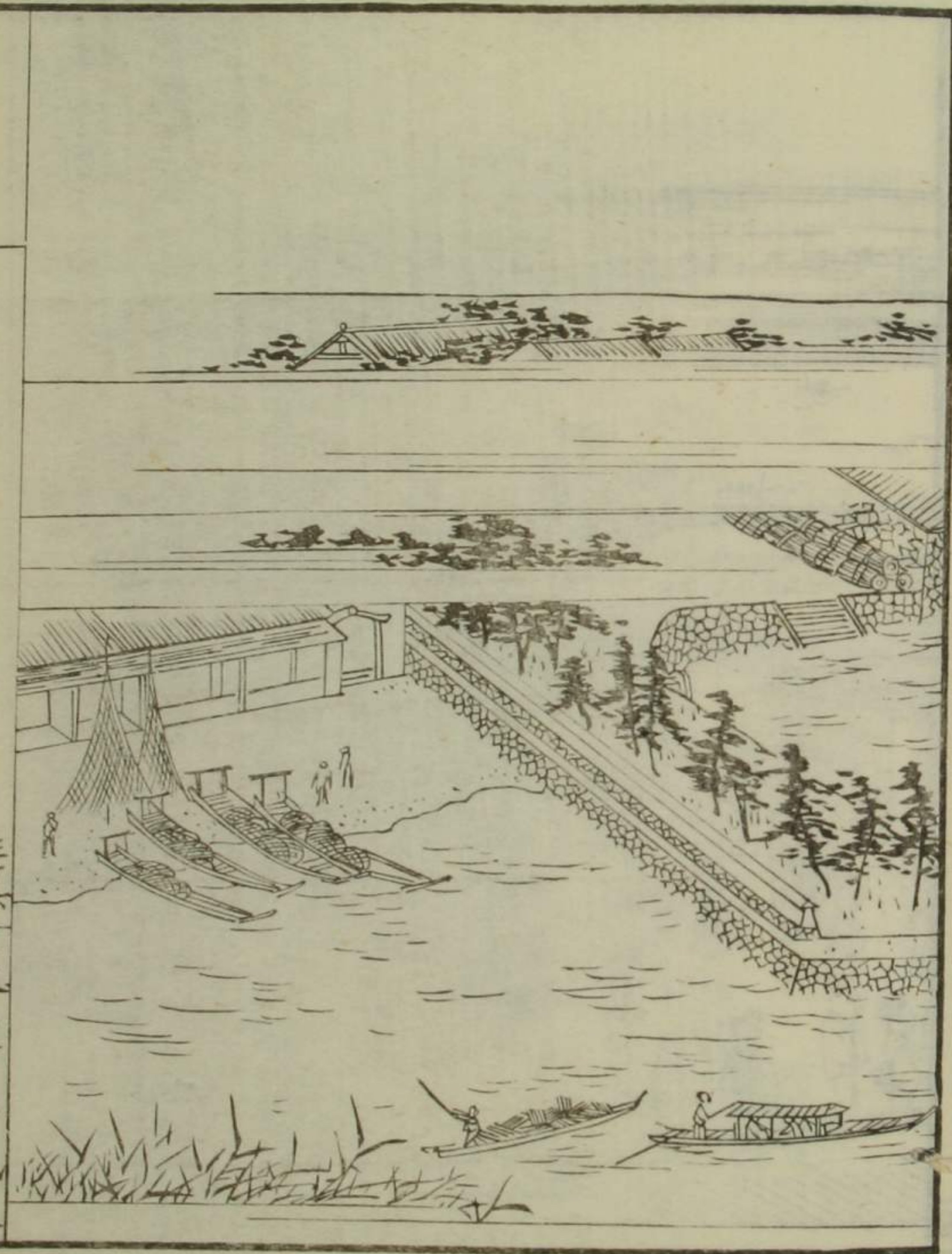
濱崎
魚迫場



三十五
魚迫場

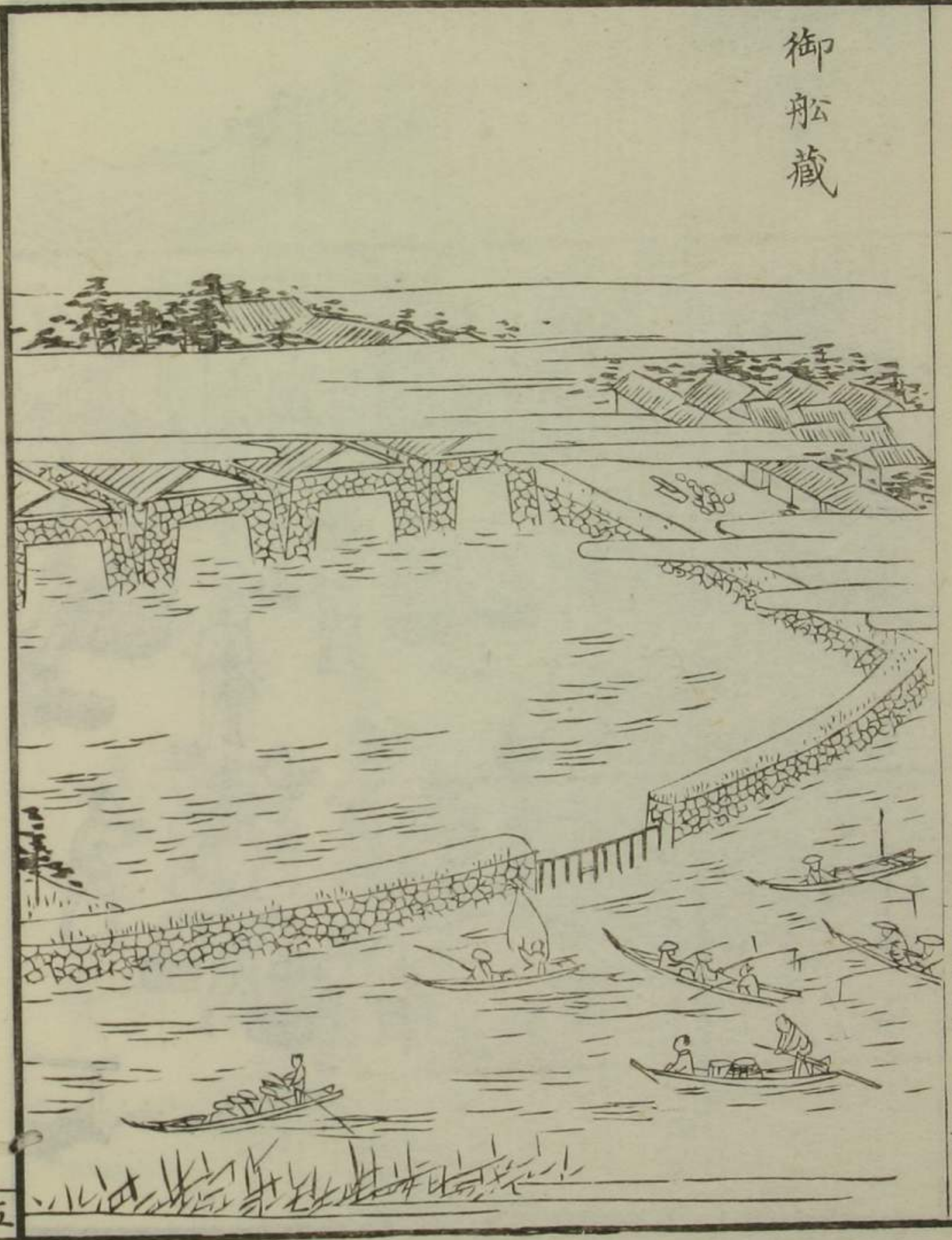


新刊月繪



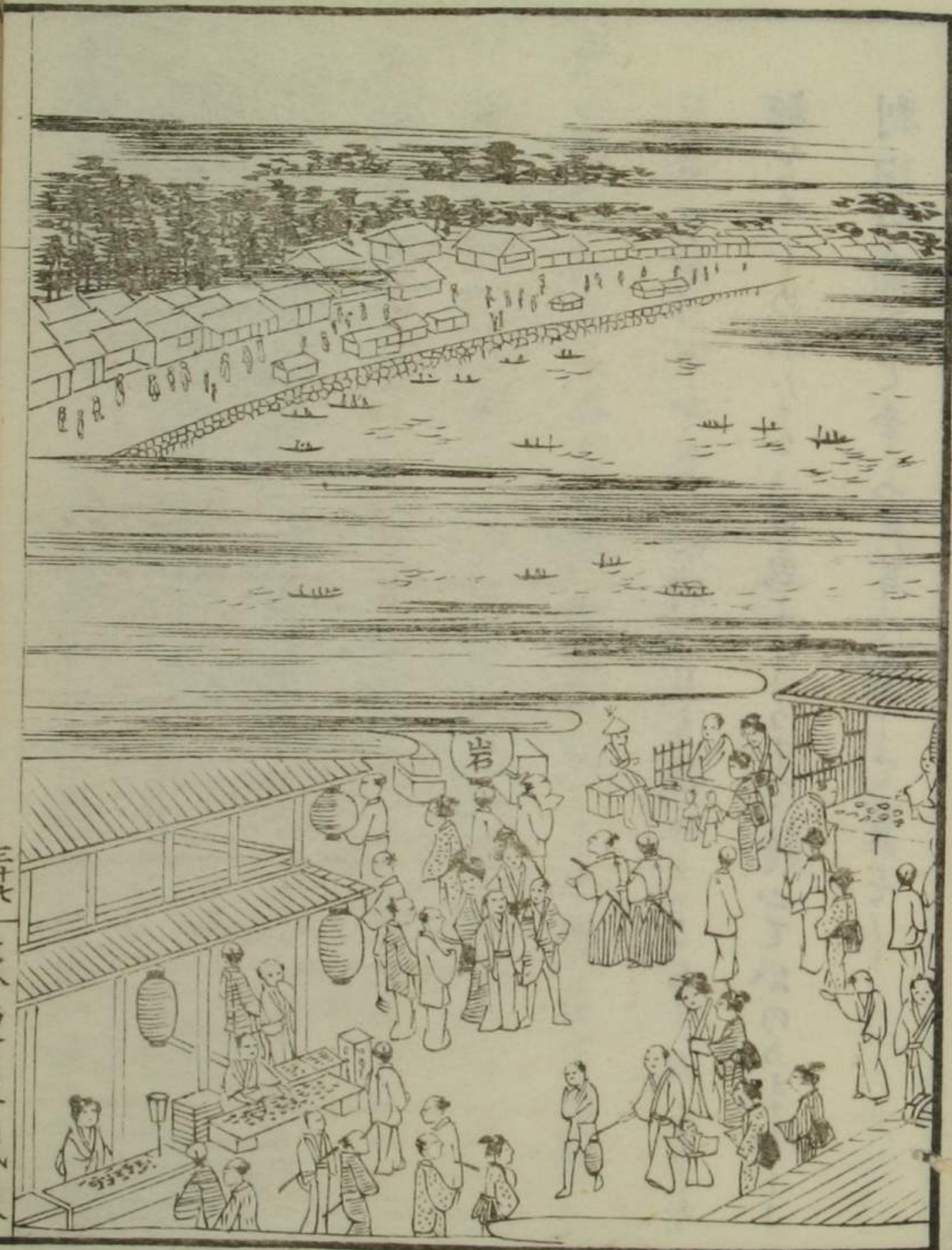
三十六
 御船藏
 御船藏
 御船藏
 御船藏

御船藏



五

御船藏



三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二

獵人町
 廿六夜待



五

永延屋雜店

濱崎、松本大川の末をいふ萩市中への商船運送の湊りて
出入の船日毎賑へる所ありて濱崎町ハ酒屋肴屋米屋
材木屋其外諸國賈舟諸郡飛脚等の同屋の住居する所ニ

渡場 同所ニ在り世ハ鶴江の渡一とのこひひるるをせしむる
濱崎渡一ハ舟場ハ御番所御高札等を建置れり

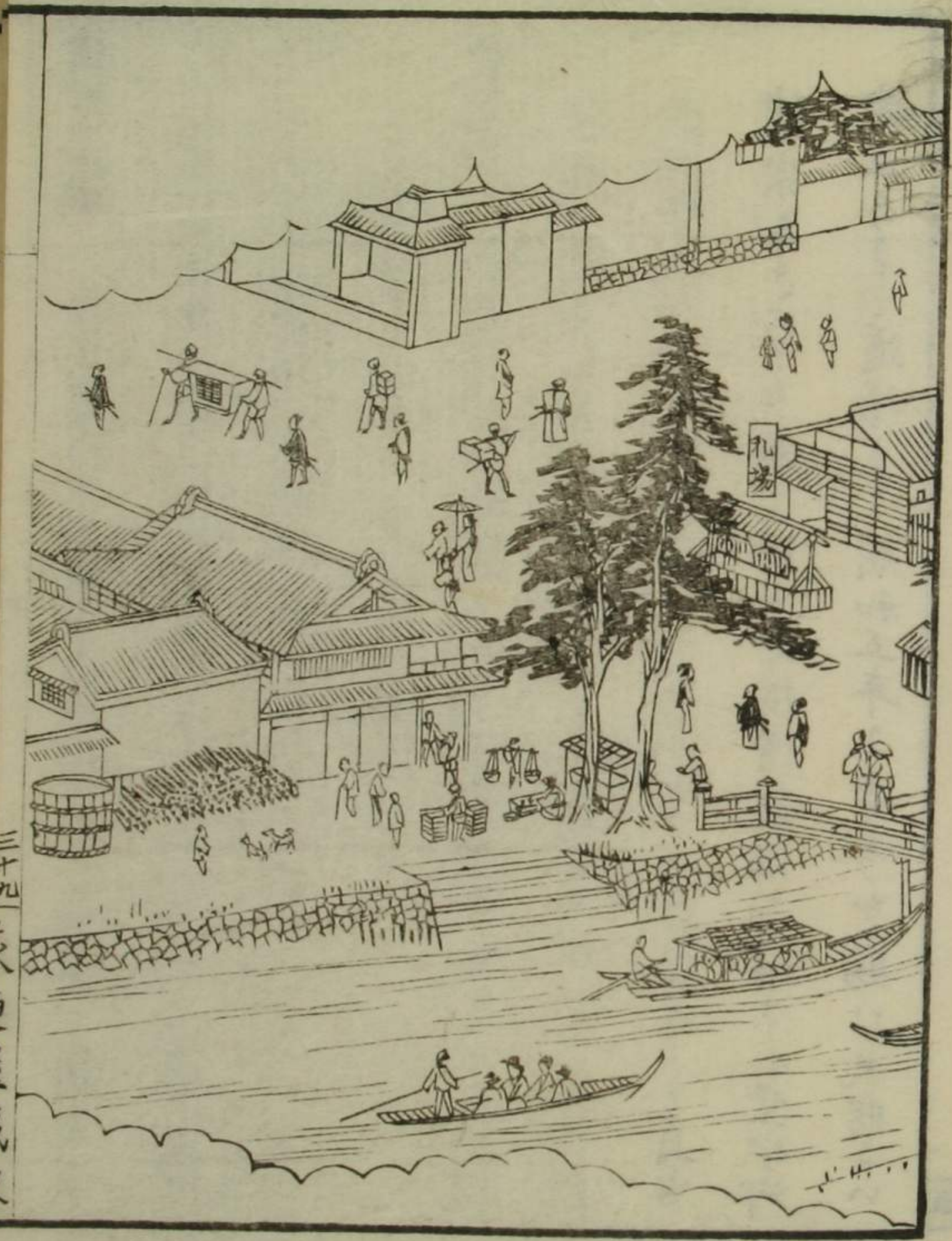
魚迫場 同所ニ在り此地ハ遠近の浦より鮮魚を運漕して
日毎魚の市を立て四時一日も絶ゆることなし大なるを
鯨をとりぬ小なるハ白魚といふるまで持てかゝるまふ
利潤の高下を争ふ声耳に徹して囂る

獵人町廿六夜 七月廿六日の夜二十六夜といひて獵人町新町

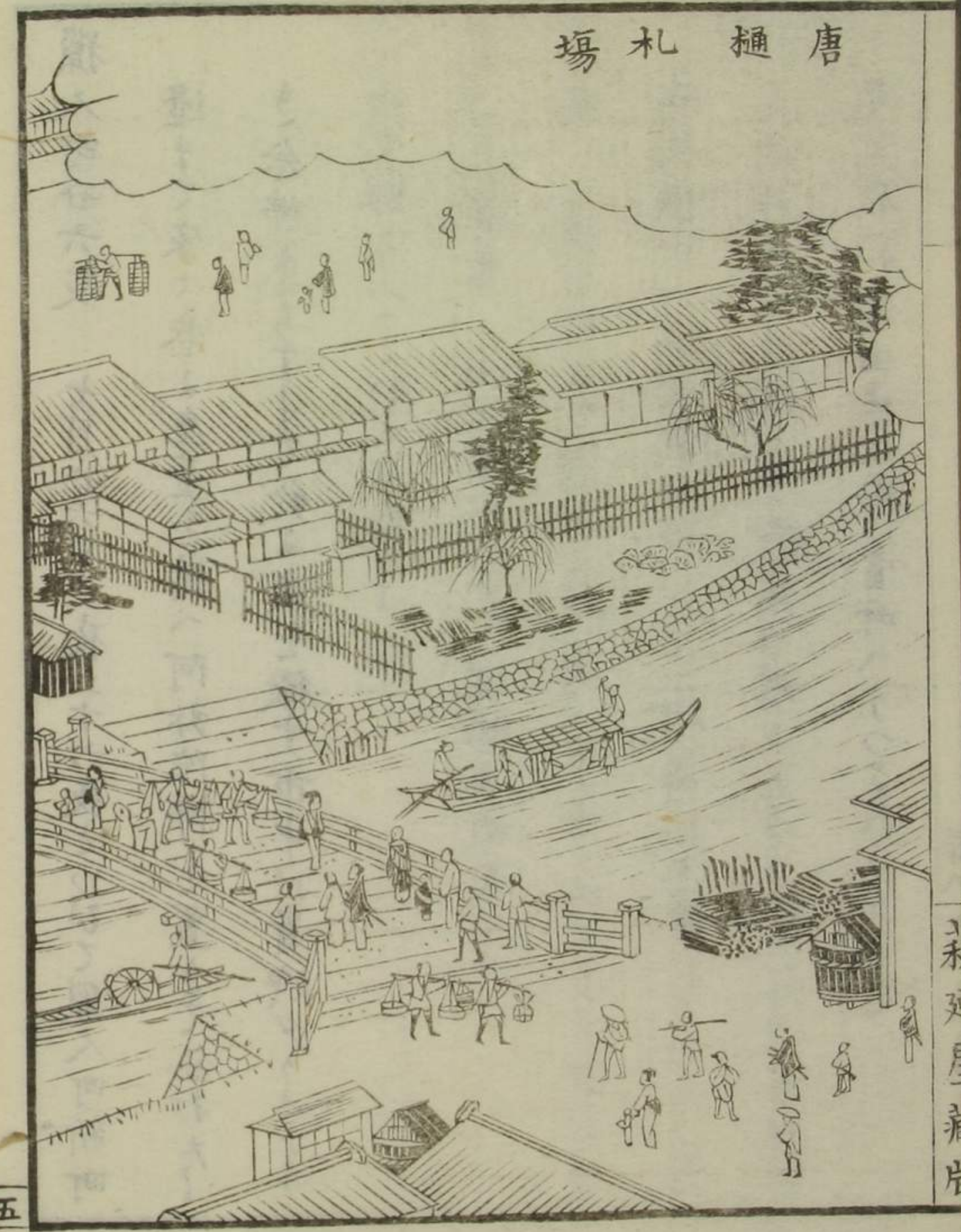
邊まで家々巷々屋臺を構へ阿弥陀佛を置きて金打た
き念佛怠らざりて終る夜を徹す市中ハ貴賤夕々より
出て賑ふことかきりあり

萩津江暮雪 古八景の一として渡場の所をいふ

札場 東田町まで唐樋と新道にありて所ニあり當所を
御兩國中八達里數の始として御高札を建おくれり昔
と南片河町の所まで御堀の端ありとていつり享保二
年土原新道出来の節當所へうつされり



三十九
 江戸
 町
 景
 一
 橋
 下
 舟
 橋
 下
 舟



唐樋札場

五

三和屋新庄

諸町盆踊

七月十六日の夜より盆踊とて夜多し諸町よ
て少きも長くも男女おきまゝておのう様よと狂て踊る
を習くす見物の上下老若お集ひて夜のあるをり知れ
終り鳥の音よ誘へて漸く歸りたり

龍福寺

古義の真言律宗よりて防府宮市國分寺に属し
開山ハ鏝海和尚より本尊ハ十一面觀音脇士ハ毘沙門
天吉祥天に當寺ハ英雲公の思召ありて萩市中に真言
律宗とまきにより新に國分寺後僧鏝海を召され堂宇御
建立ありし道場より明和五年に寺号を賜ひ天明より

くつて落成すと云

聖天堂 天神社

寶物 鎌倉権五郎景政の太刀一振 弘法大師の書

巨溪山稱名院

同所の東にあり浄土宗よりて常念寺に属
す開山ハ常念寺七世長譽求公和尚元禄六年の州創より
木島何某建立とより本尊ハ阿弥陀脇立ハ觀音勢至なり
寺地ハ元ト秋里氏屋よりきこひ

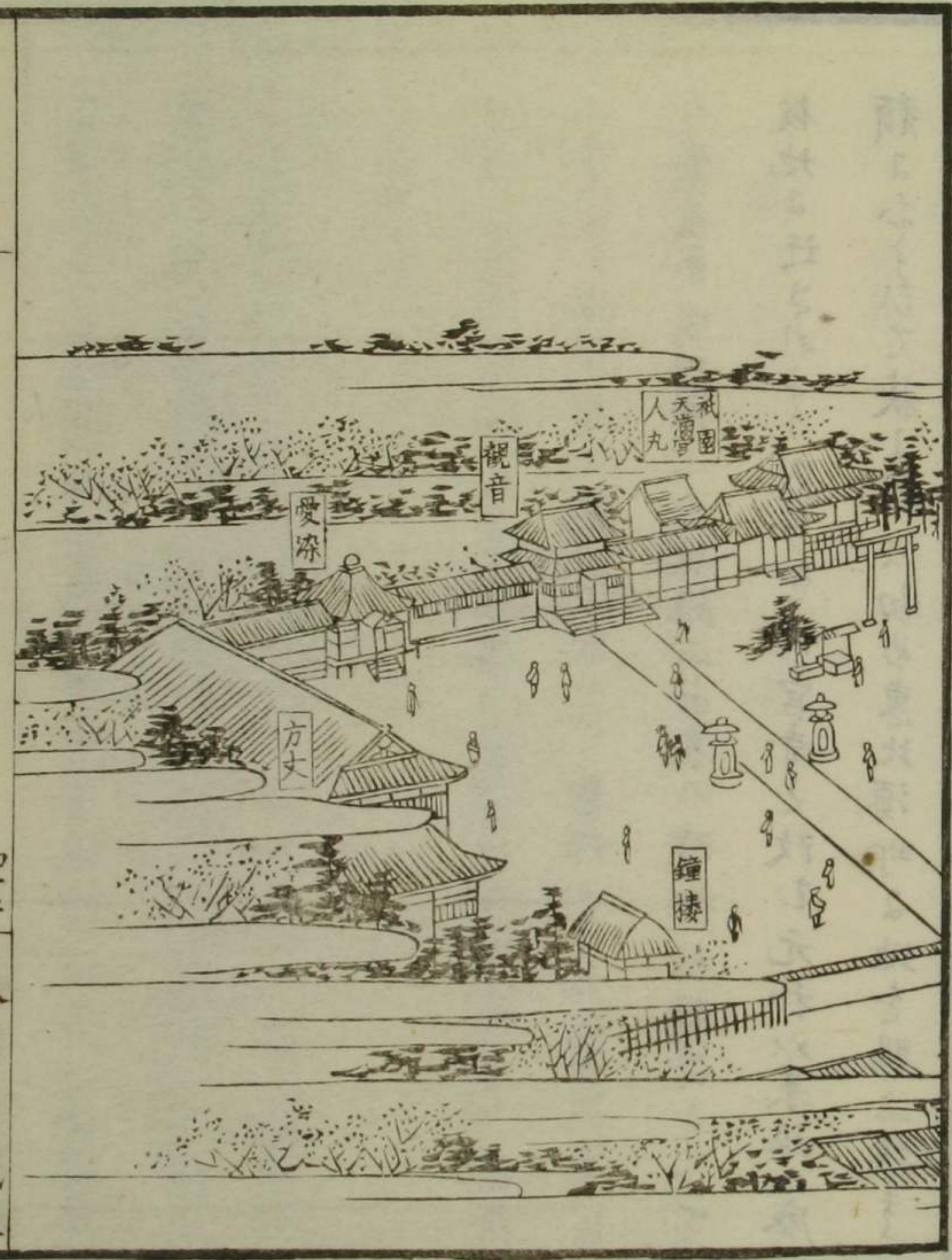
十王堂 閻魔法王

宗印の作 万同建立

寶塔山神宮寺吉祥密院

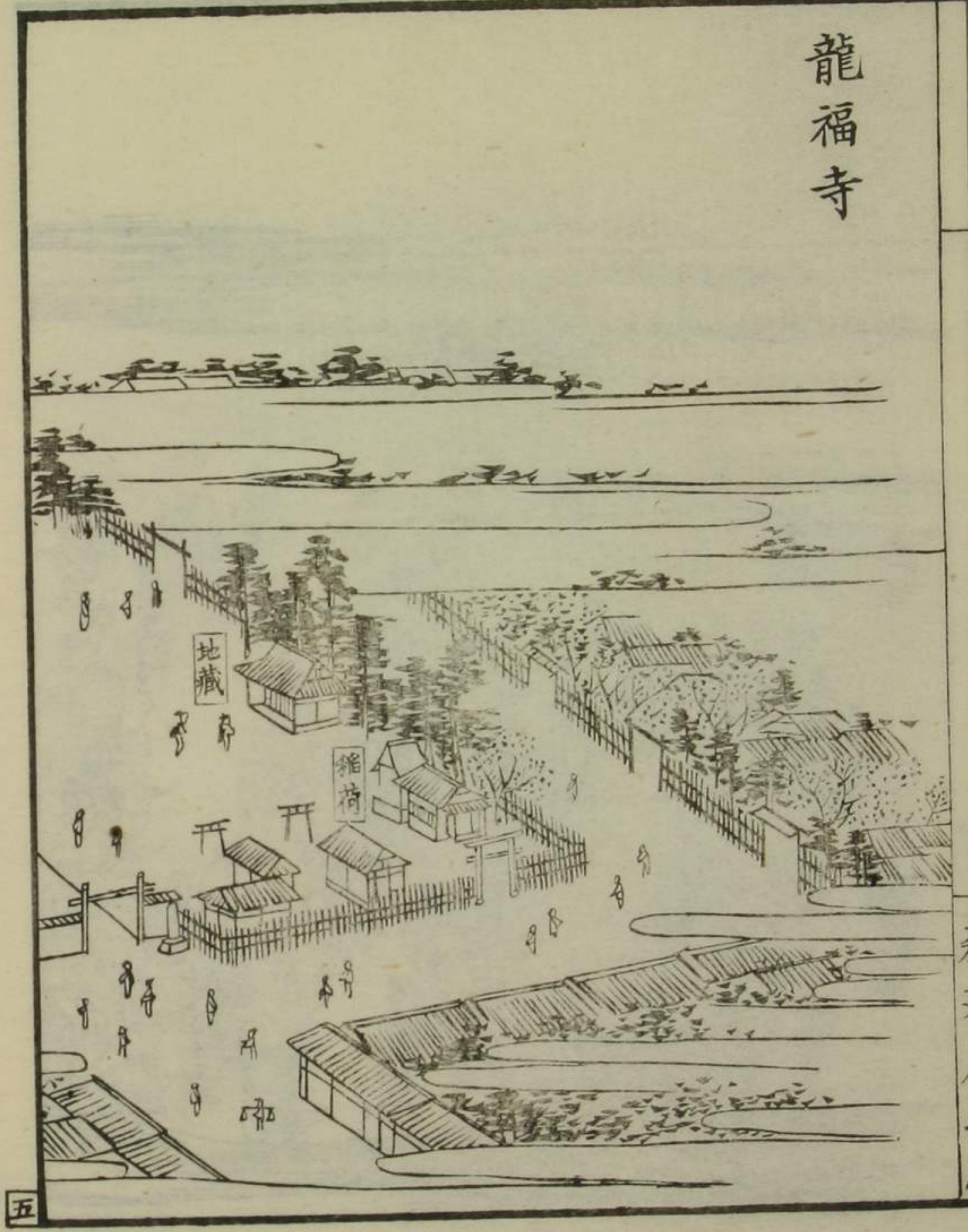
御許町中程東側にあり古義の真

四
寶塔山神宮寺吉祥密院



龍福寺

龍福寺



五

龍福寺

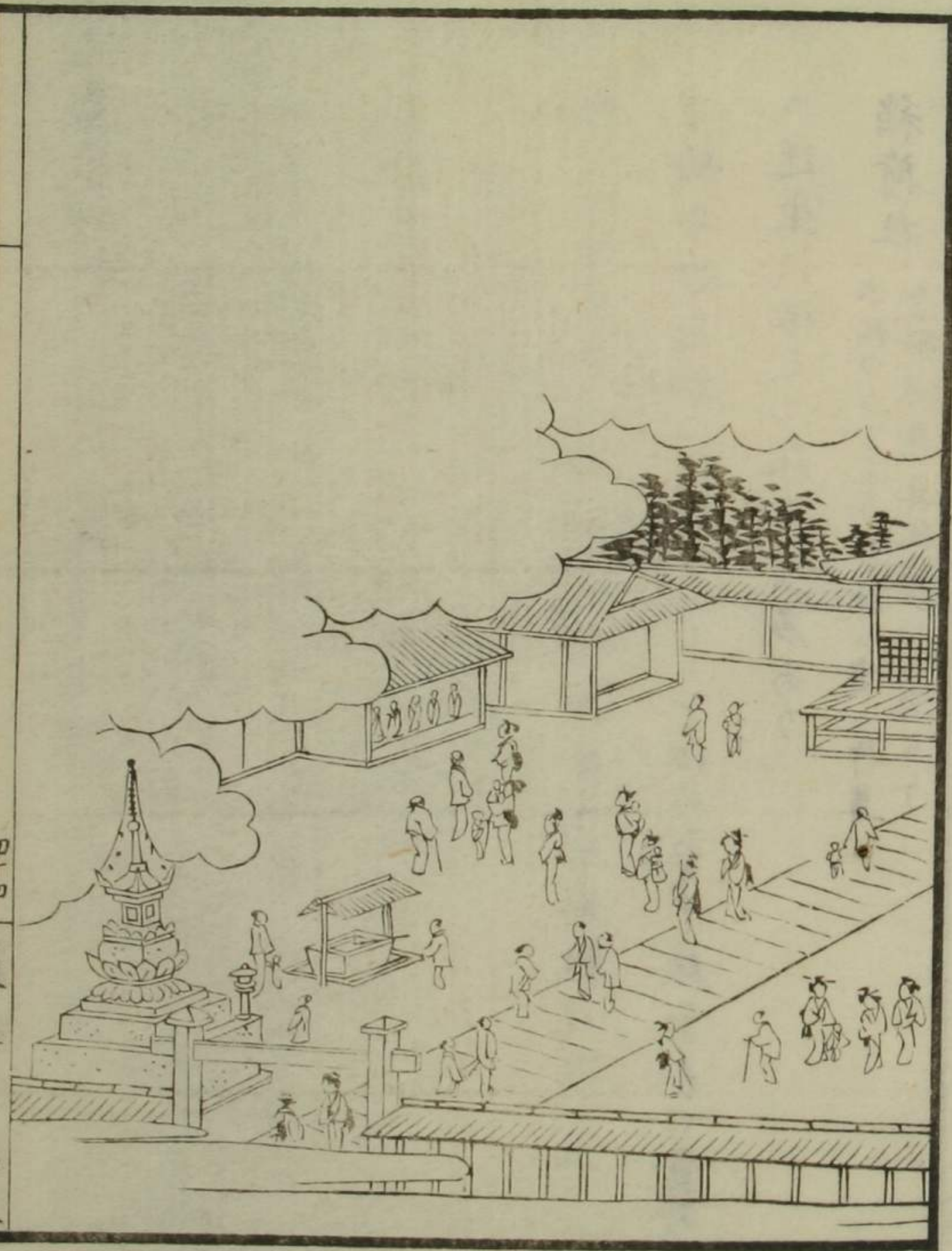
言律宗一して満願寺に属す開山の良盛法印より佛殿本尊毘沙門天の尊像ハ一の坂銀山より掘出す所の金像ハ
仏工運慶の作或ハ昆首 相殿薬師佛の一体ハ石州銀山薬師寺
羯尸の作ともいへり
の本尊ありといふ

本堂本尊子安観世音菩薩ハ聖徳太子御作り相傳
ふ當寺ハ往古石州銀山にありて薬師寺といふ古刹ありし
り慶長年間防州一の坂銀山出来の時御祈願所として
彼地又迁されり則号を神宮寺と改む元和以来銀山廢
類におよひて萩に轉に初め惠比須町に地を賜ふ後ま

當所は再建すといふ

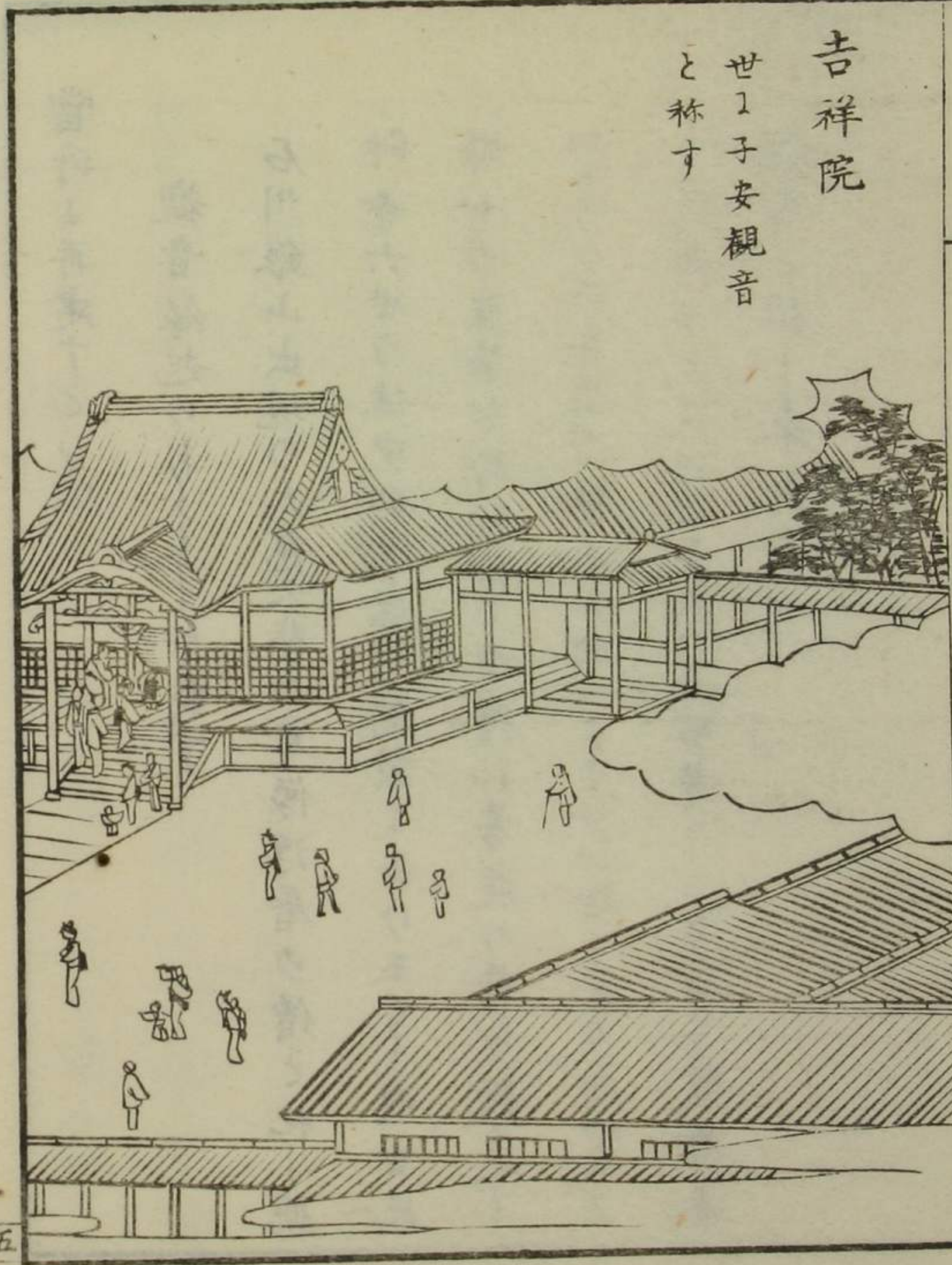
観音縁起のありを載す

石州銀山出現の大慈大悲の尊像浮屠の僧と化し薬
師寺六世の住中興光盛阿闍梨に告げ玉て我日比
婦女の産苦を矜む依て貴僧に易産の符を授くへ
かかへに邑里の婦人よ與へよといひ捨て去り玉ふ夫よ
り近郷の人民信心をば其功著るり号けて愛敬子安
観音と稱し奉る



四
田
原
馬
籠
鐵
坂

吉祥院
世に子安観音
と称す



新
延
屋
痛
版

五

二森荒神社 茶の木原より田畑より出る角にあり當地を

号けて二森といふ社司吉屋氏奉祀す吉屋氏の昔春日社

の大宮司ありといふ其阿久とて今よ文書を傳ふ又

大内家判物等もあり慶長十二年迄ハ春日社主職あり

一由云傳ふ例祭ハ九月十一日なり

昔ハ下土原波戸場 井原波戸場といふ 井原氏下屋敷の内よあり

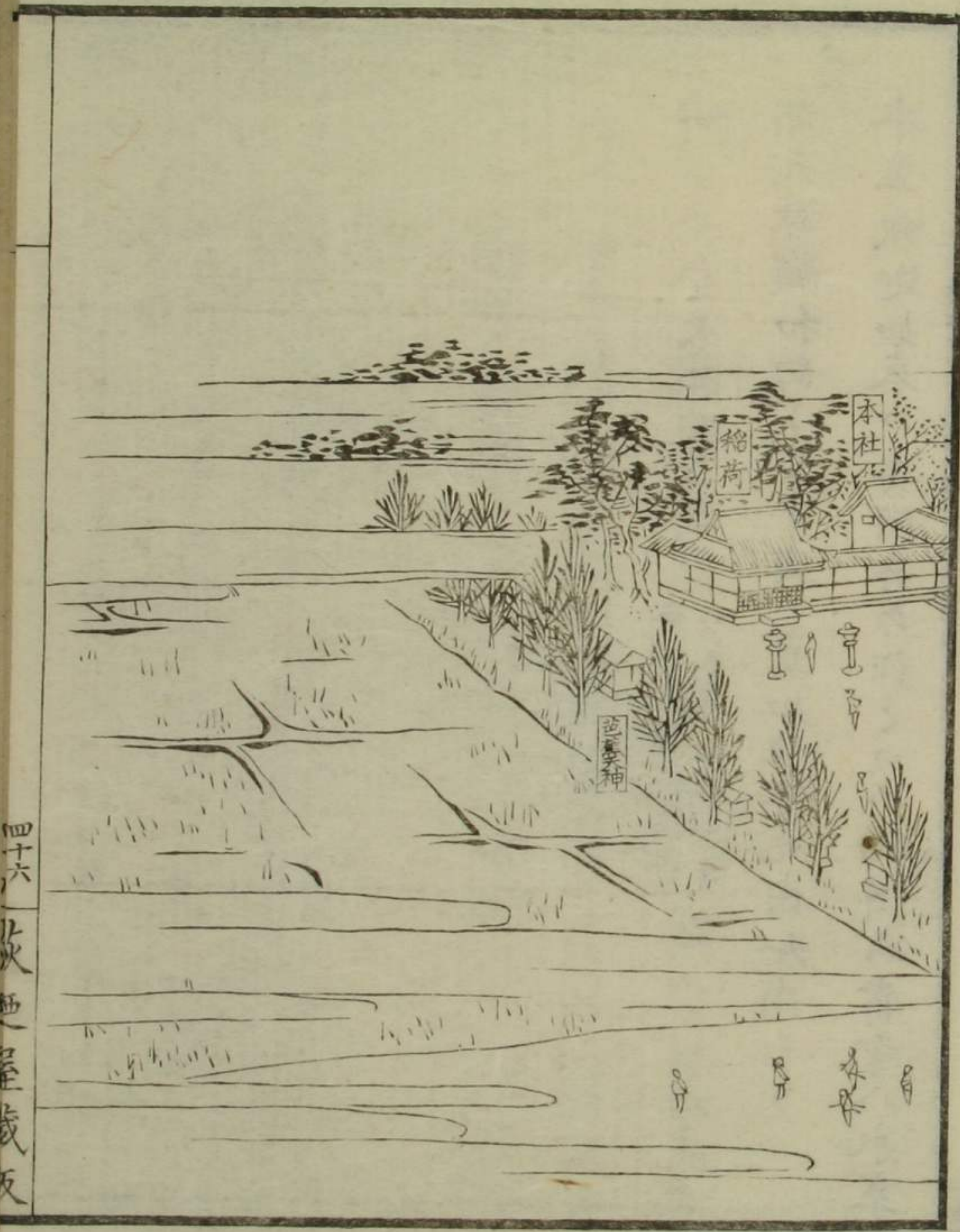
て鎮守妙見社と相殿ありをゆゑありて社を分て當所

へ遷坐に依て二森といふ名あり

稻荷社 本社の右よあり祭神ハ瓊杵尊・倉稻魂尊真狐神の三座なり

辨天橋





四十六 茨城屋敷坂



二森荒神社

五

五 二森屋敷坂

辨天橋

八丁をちまて東へゆくつめ此所あり

此あり八丁川島と云

むろー當所は連貞といひ尼の菴室あり彼ら法号をいひ
謬てべんといひ傳ふといひ

黒沢繩手ま
と歴然たり

いとひあり

都て家名をとりて所の名より
さるはいと多し熊谷丁雜賀下り

指月山善福寺

川島あり臨濟派の古刹にて款五箇

寺の一なりとて曹洞派の禅宗ありと云中比宗風を

轉して今天樹院は属に

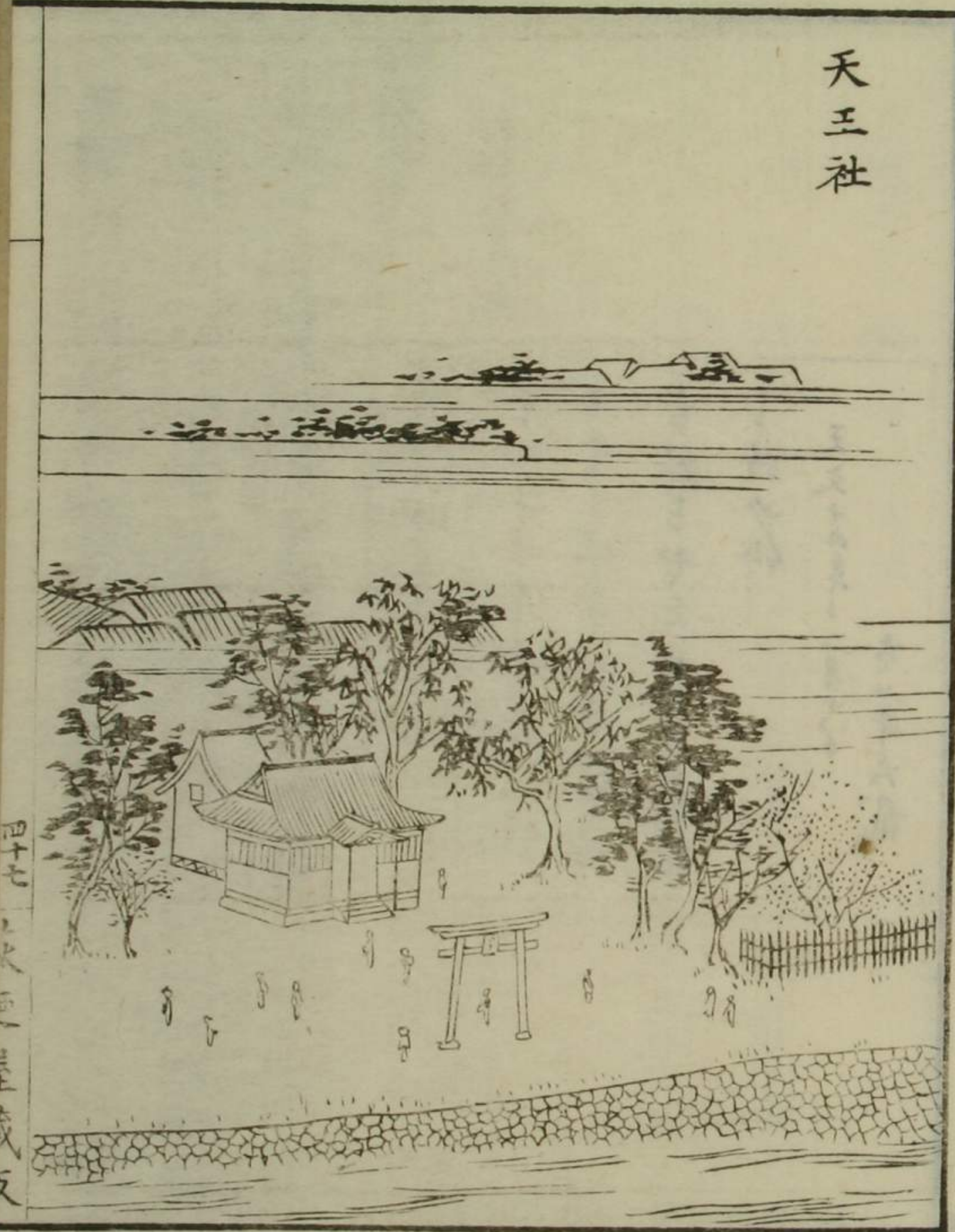
昔ハ京都東福寺
の末院ありと云

開山ハ前住建長

翔天源騮和尚とて中興ハ真如桂本元鹵和尚あり

本尊釈迦如来ハ安阿弥の作といひ相傳ふ當寺ハ永享

天王社



年間の艸創あり大内家代々の菩提所と今に判物等を存せりいりへハ指月山の麓あり

御城山を指月山といふ

此山号を稱す御城造營の時當地を賜ひて再創すと云

地藏堂

鐘樓の右に並ぶ本尊地藏并ハ行基の作

大内家判物

とつふ所武郡落津浦
内を丁地事不令寄附
善徳寺や云早可寺勢
し柿少件
天文十九年二月十日
古年大貳

天王社

涅槃像一幅 宅ノ證賀筆

天王社 川島の東詰土手の上帯虹灣又望みて南に向ふ

市杵島大明神社 橋本大橋の東川島の土手あり川に

望みて南に向ふ

祭神 市杵島姫 勸請年月詳るるに例祭ハ六月十七日

あり

八江菽名所圖画卷五終

